

【調査A】

2020年度COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果

◎2020年9月～10月以降、2020年度に開講予定あるいは開講している
実習科目

対象者：各大学代表者（日本看護系大学協議会社員）

調査期間：2020年10月9日（金）～11月6日（金）

COVID-19によって臨地実習は大きな影響を受けた。このように感染等で影響を受けない新しい実習の在り方とはどのようなものかを探索する基礎資料とする。

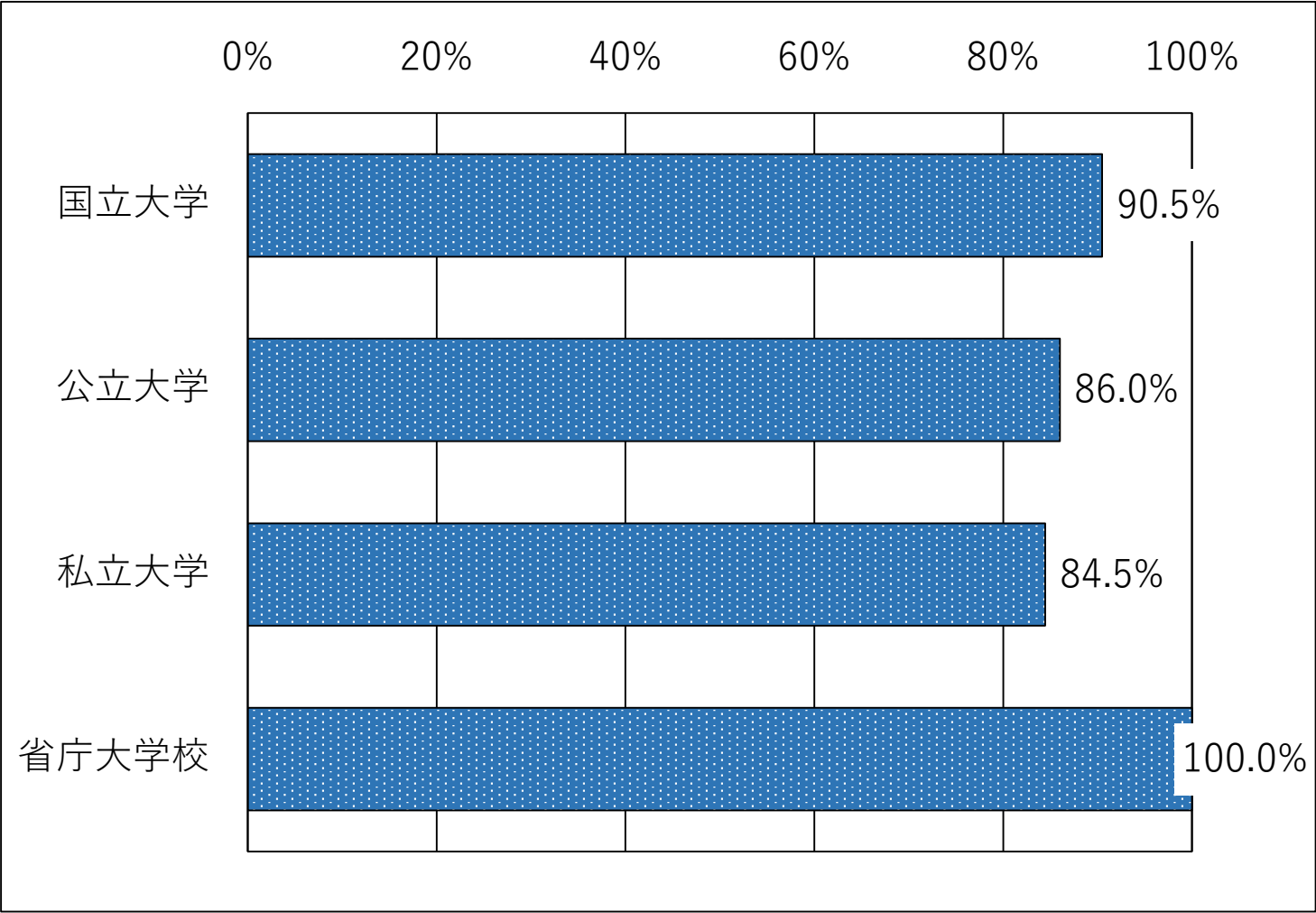
一般社団法人日本看護系大学協議会
看護学教育質向上委員会(2020.12)

調査A報告内容

内容	ページ
国公立区分別の回収状況	3
各設置ブロックの回収状況	4
開講予定あるいは開講している実習科目の概要	5-18
コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか	19-28
臨地実習先との調整内容～それでも実習が受け入れられなかったのは何が原因なのか～	29-38
大学の責任者は、今回の臨地実習への影響で、何を問題点として指摘したか？今後どのような実習の在り方を考えているのか？	39-43
【資料】感染予防のために実習施設と調整していること～「調査A_大学代表者」及び「調査B_実習科目責任者」の結果比較	45-46
【資料】設置ブロック別の臨地での実習状況	47-52

国公立区分別の回収状況

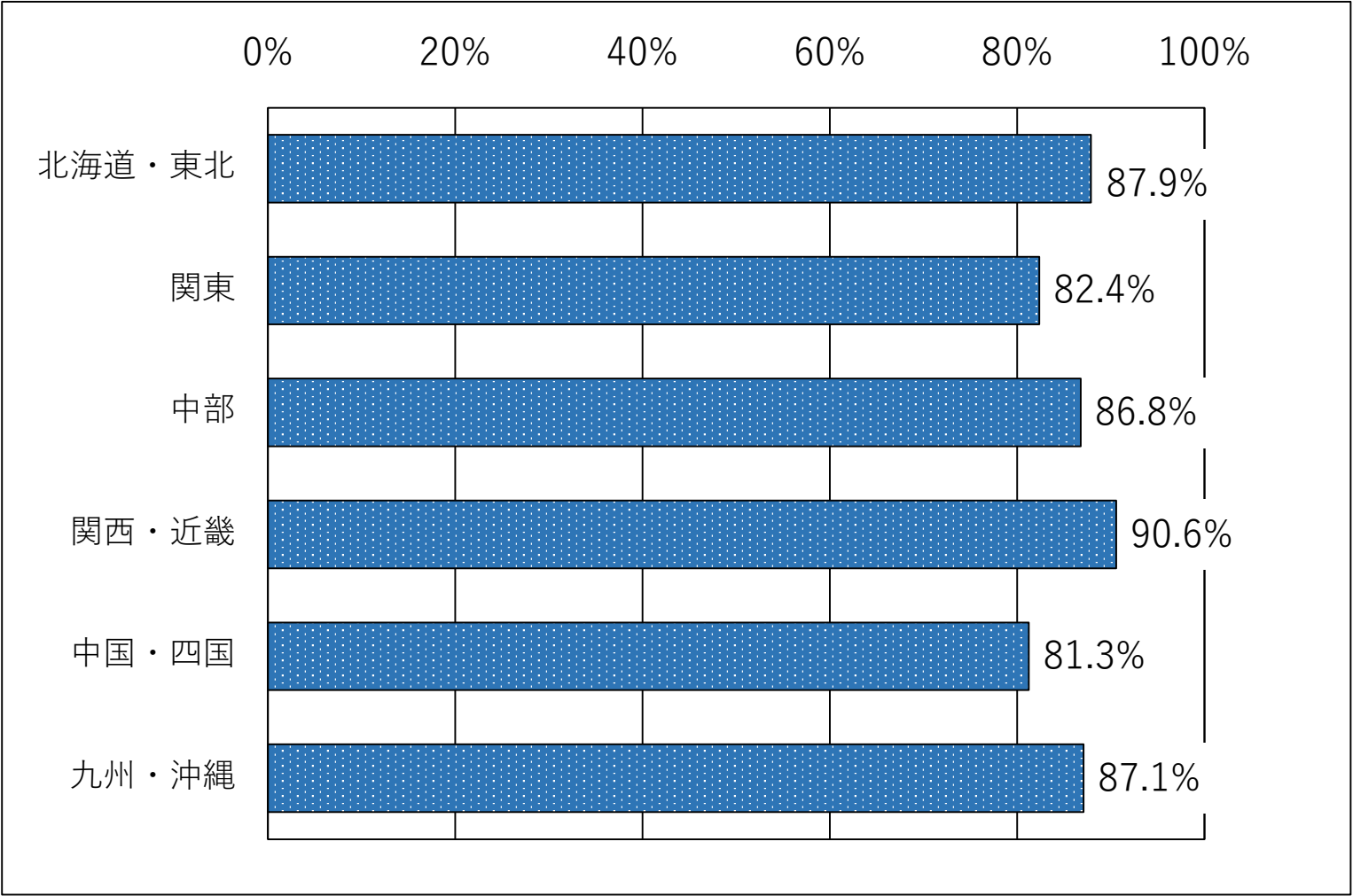
国公立立 区分	配布数	回収数	%
国立大学	42	38	90.5%
公立大学	50	43	86.0%
私立大学	193	163	84.5%
省庁大学校	2	2	100.0%
全体	287	246	85.7%



回答者の基本属性

各設置ブロックの回収状況

ブロック	配布数	回収数	%
北海道・東北	33	29	87.9%
関東	85	70	82.4%
中部	53	46	86.8%
関西・近畿	53	48	90.6%
中国・四国	32	26	81.3%
九州・沖縄	31	27	87.1%
全体	287	246	85.7%



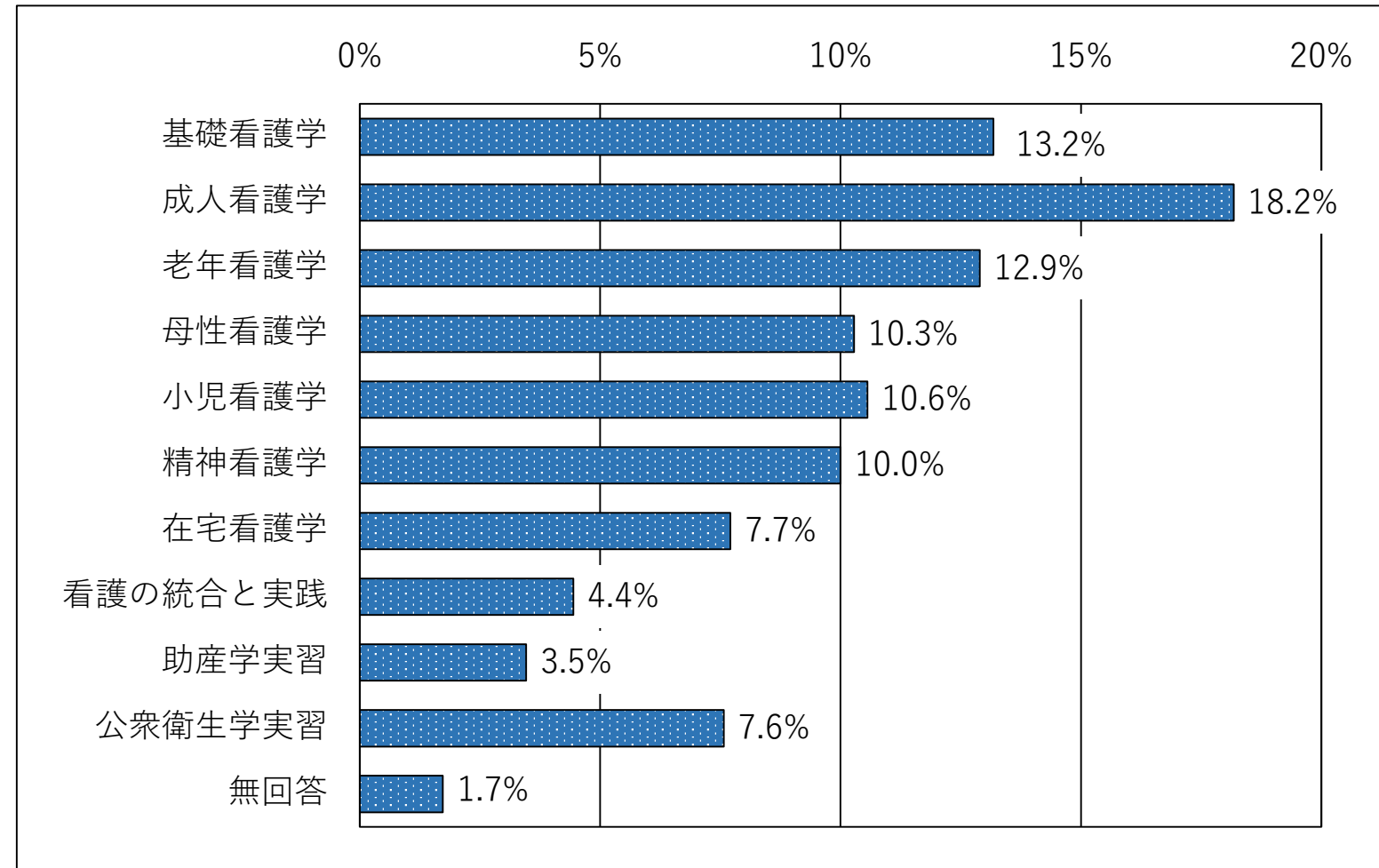
開講予定あるいは開講している実習科目の概要

【調査内容】

I．2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてお聞かせください。なお、実習科目は、学部の教育課程で設けている保健師・助産師教育課程に該当する科目も含みます。

実習科目の専門領域

専門領域	n	%
基礎看護学	282	13.2%
成人看護学	389	18.2%
老年看護学	276	12.9%
母性看護学	220	10.3%
小児看護学	226	10.6%
精神看護学	214	10.0%
在宅看護学	165	7.7%
看護の統合と実践	95	4.4%
助産学	74	3.5%
公衆衛生看護学	162	7.6%
無回答	37	1.7%
全体	2,140	100.0%

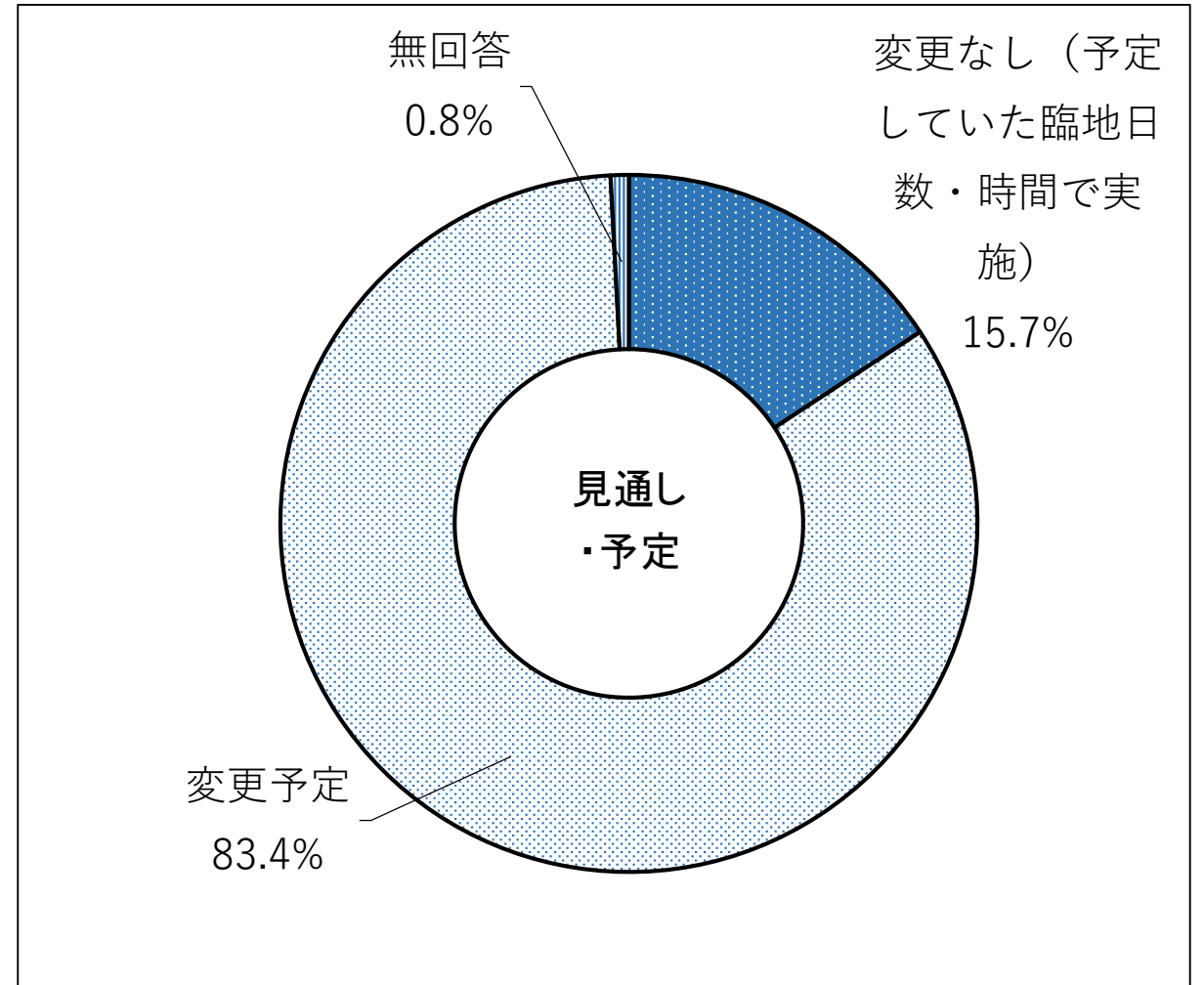


専門領域別にみると上位3位は、成人看護学389件(18.2%)、基礎看護学282件(13.2%)、老年看護学276件(12.9%)であった。

実習の見通し・予定(全体)

実習の見通し・予定	n	%
変更なし(予定していた 臨地日数・時間で実施)	337	15.7%
変更予定	1,785	83.4%
無回答	18	0.8%
全体	2,140	100.0%

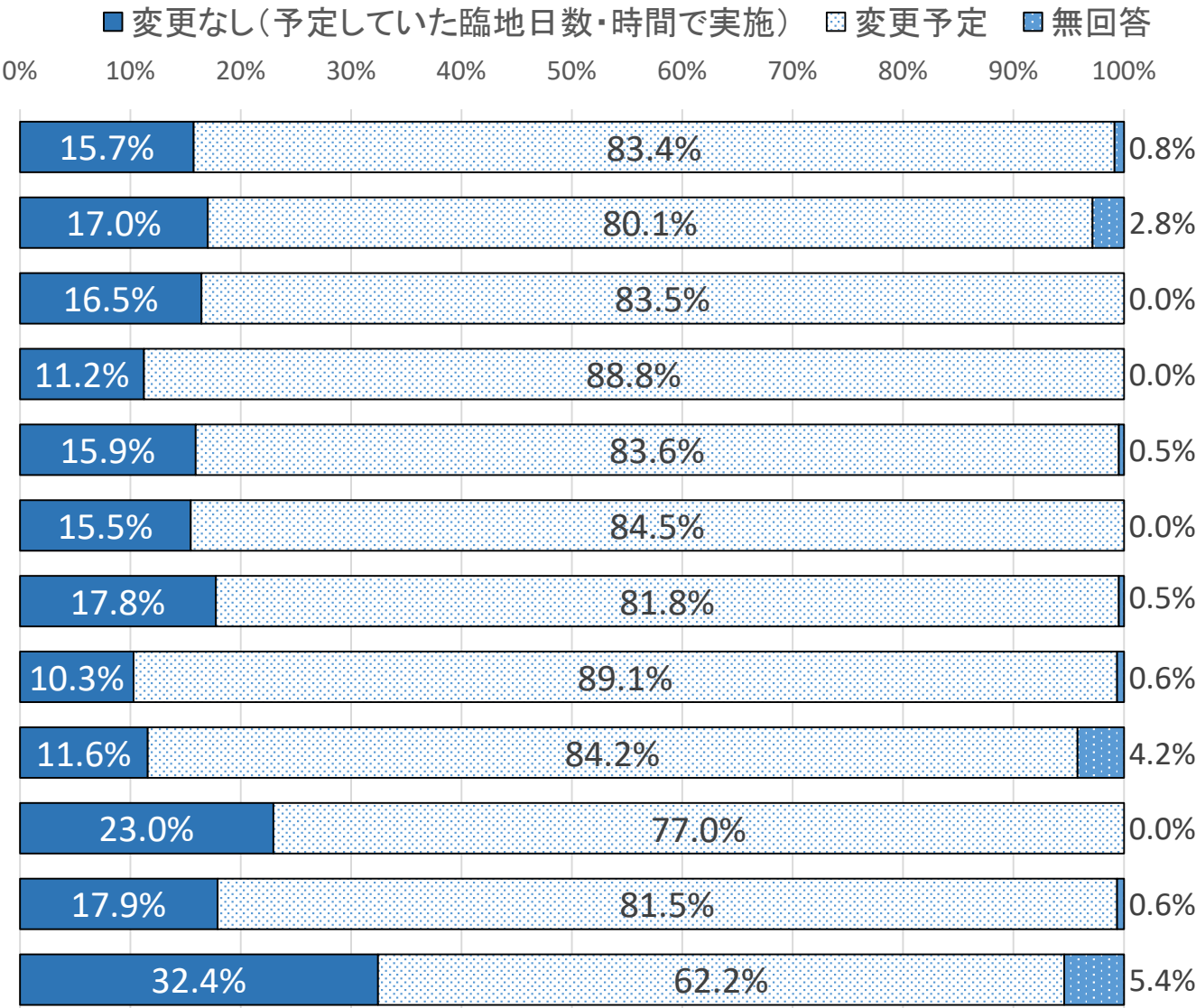
実習の見通し及び予定について、変更予定は1,785件(83.4%)であった。



実習の見通し・予定（専門領域）

〔件(%)〕

専門領域	合計	変更なし（予定していた 臨地日数・時間で実施）	変更予定	無回答
全体	2,140(100.0)	337(15.7)	1,785(83.4)	18(0.8)
基礎看護学	282(100.0)	48(17.0)	226(80.1)	8(2.8)
成人看護学	389(100.0)	64(16.5)	325(83.5)	0(0.0)
老年看護学	276(100.0)	31(11.2)	245(88.8)	0(0.0)
母性看護学	220(100.0)	35(15.9)	184(83.6)	1(0.5)
小児看護学	226(100.0)	35(15.5)	191(84.5)	0(0.0)
精神看護学	214(100.0)	38(17.8)	175(81.8)	1(0.5)
在宅看護学	165(100.0)	17(10.3)	147(89.1)	1(0.6)
看護の統合と実践	95(100.0)	11(11.6)	80(84.2)	4(4.2)
助産学	74(100.0)	17(23.0)	57(77.0)	0(0.0)
公衆衛生看護学	162(100.0)	29(17.9)	132(81.5)	1(0.6)
無回答	37(100.0)	12(32.4)	23(62.2)	2(5.4)



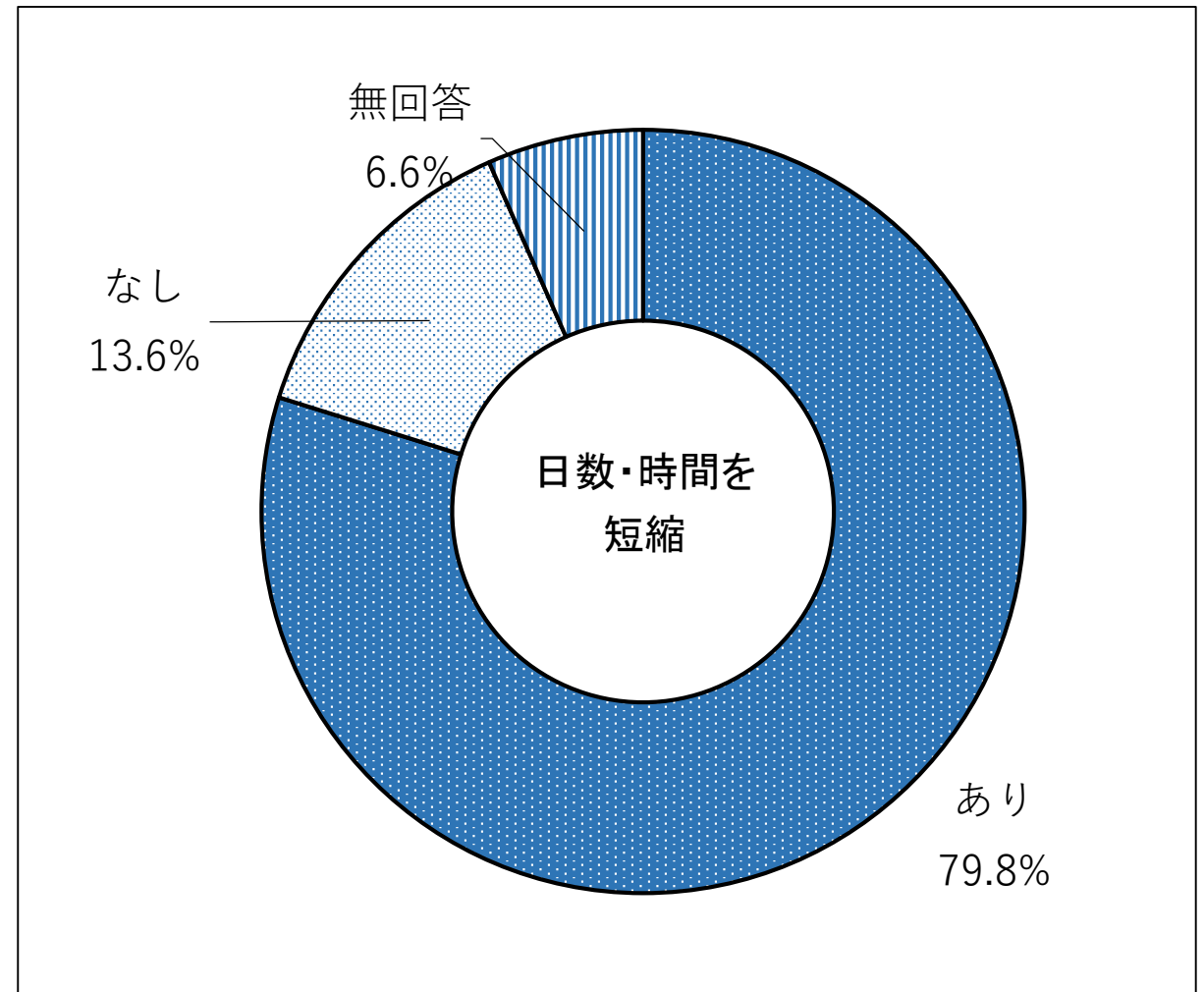
専門領域別にみると変更予定の上位3位は、在宅看護学147件(89.1%)、老年看護学245件(88.8%)、小児看護学191件(84.5%)であった。

〔色分け〕オレンジ：第1位、グリーン⁸：第2位

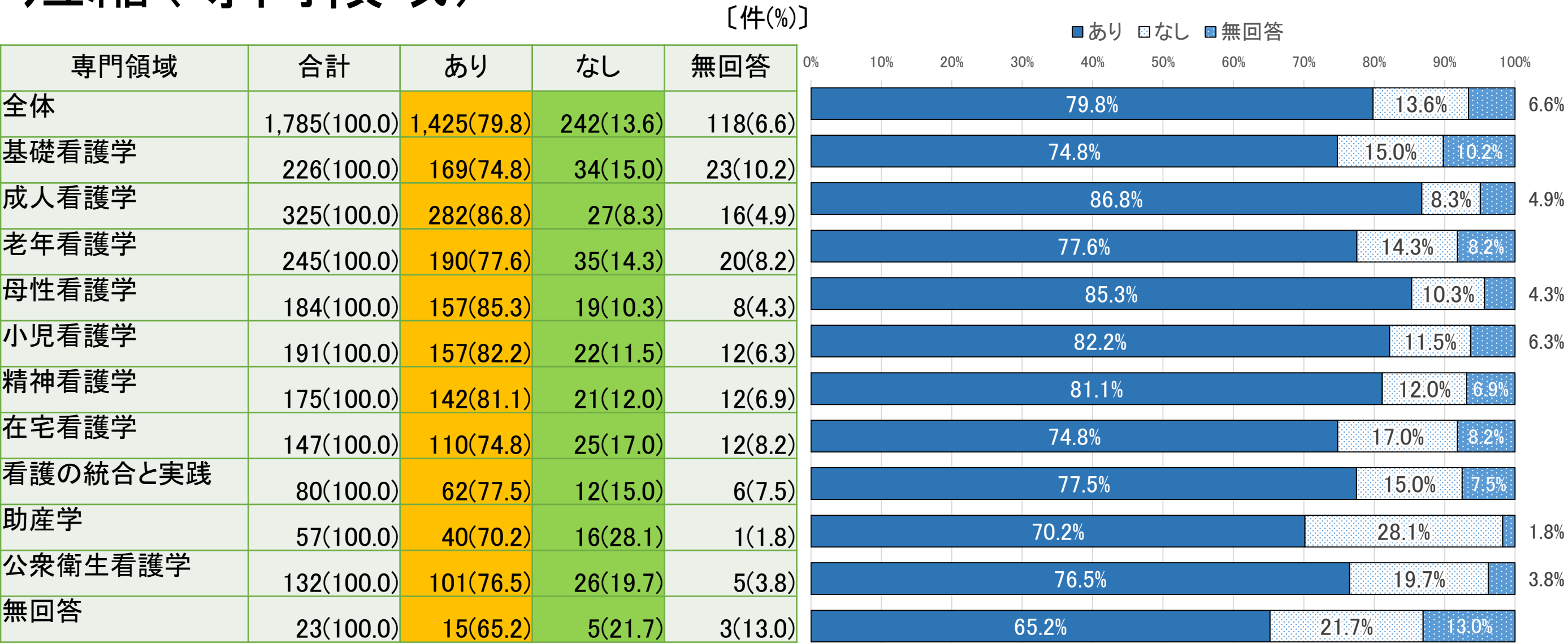
実習の変更を予定している場合：臨地の日数・時間を短縮（全体）

臨地の日数・時間を短縮	n	%
あり	1,425	79.8%
なし	242	13.6%
無回答	118	6.6%
非該当	355	
全体	1,785	100.0%

臨地の日数・時間短縮ありは、1,425件(79.8%)であった。



実習の変更を予定している場合：臨地の日数・時間を短縮（専門領域）

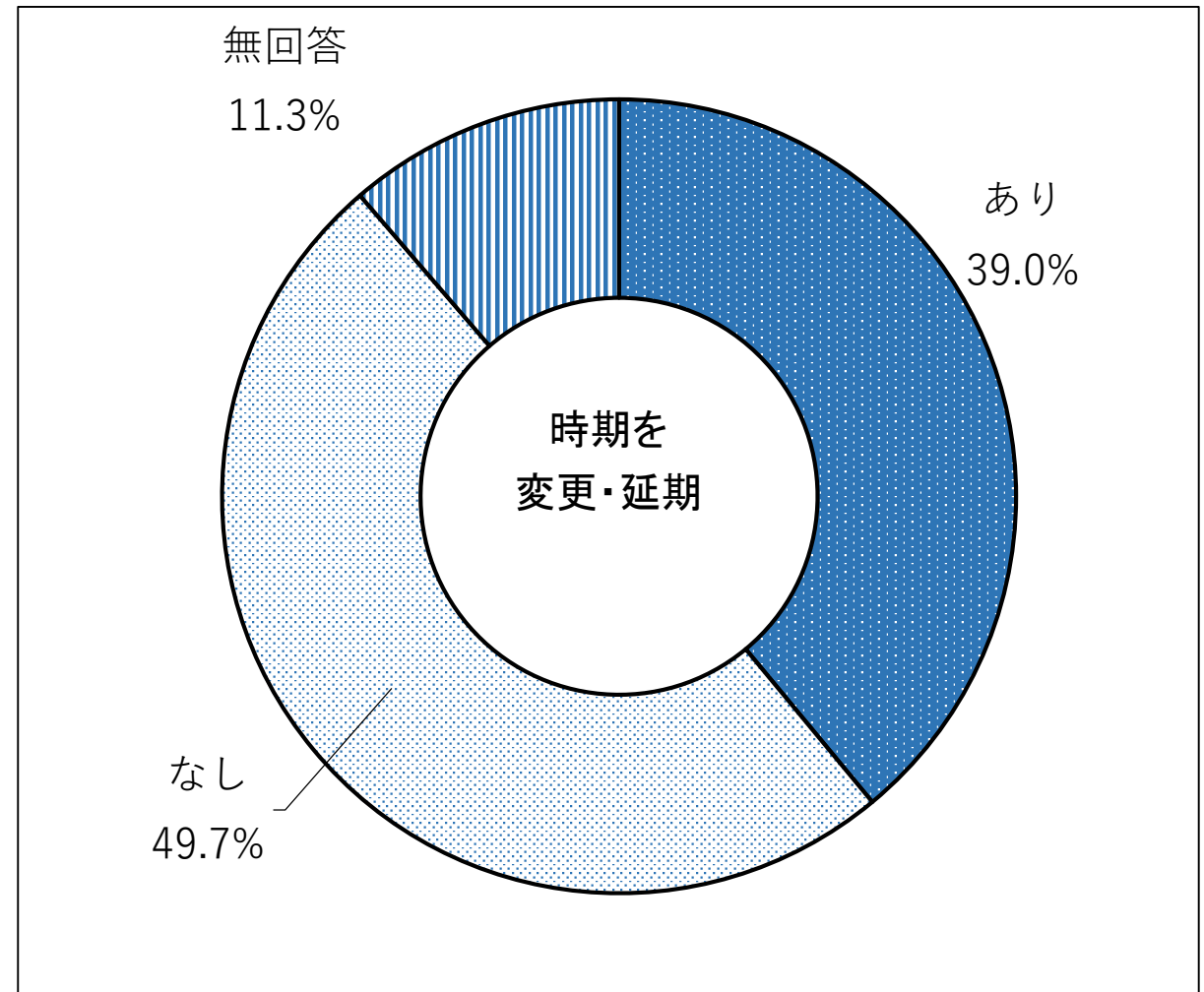


専門領域別にみると臨地の日数・時間短縮ありの上位3位は、成人看護学282件(86.8%)、母性看護学157件(85.3%)、小児看護学157件(82.2%)であった。

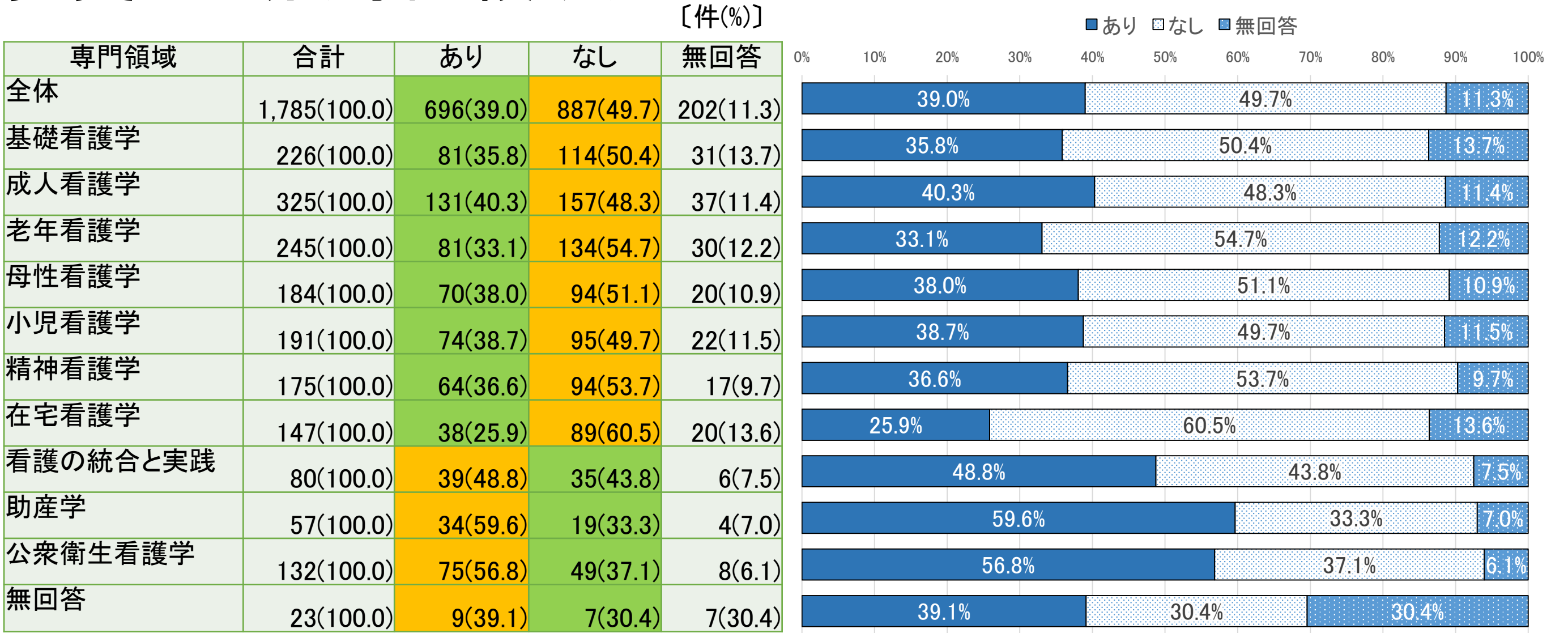
実習の変更を予定している場合：臨地での実習 時期を変更・延期（全体）

臨地での実習時期を 変更・延期	n	%
あり	696	39.0%
なし	887	49.7%
無回答	202	11.3%
非該当	355	
全体	1,785	100.0%

臨地の実習時期の変更・延期ありは、696件(39.0%)であった。



実習の変更を予定している場合：臨地での実習時期を変更・延期（専門領域）

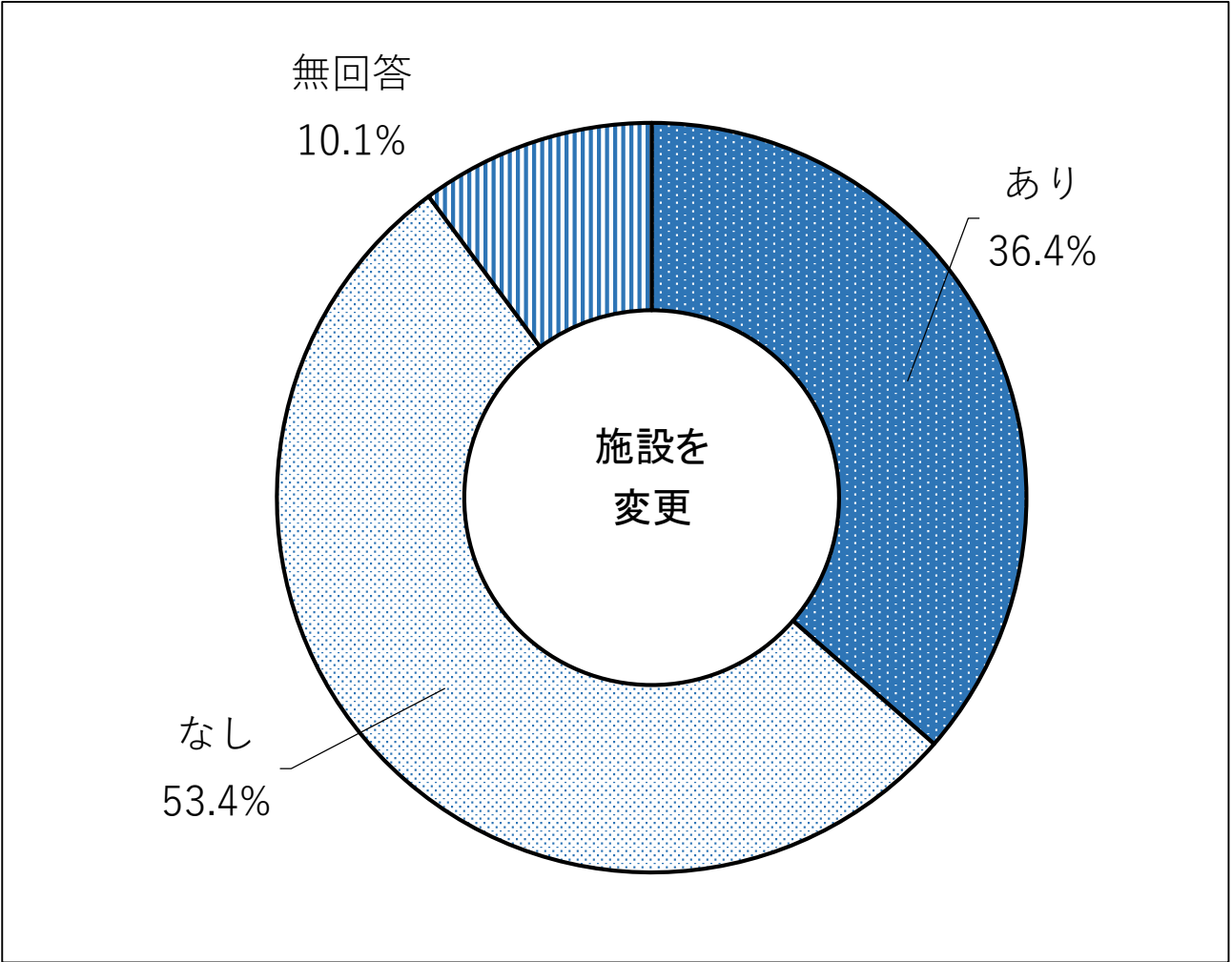


専門領域別にみると臨地の実習時期の変更・延期ありの上位3位は、助産学34件(59.6%)、公衆衛生看護学75(56.8%)、看護の統合と実践39件(48.8%)であった。

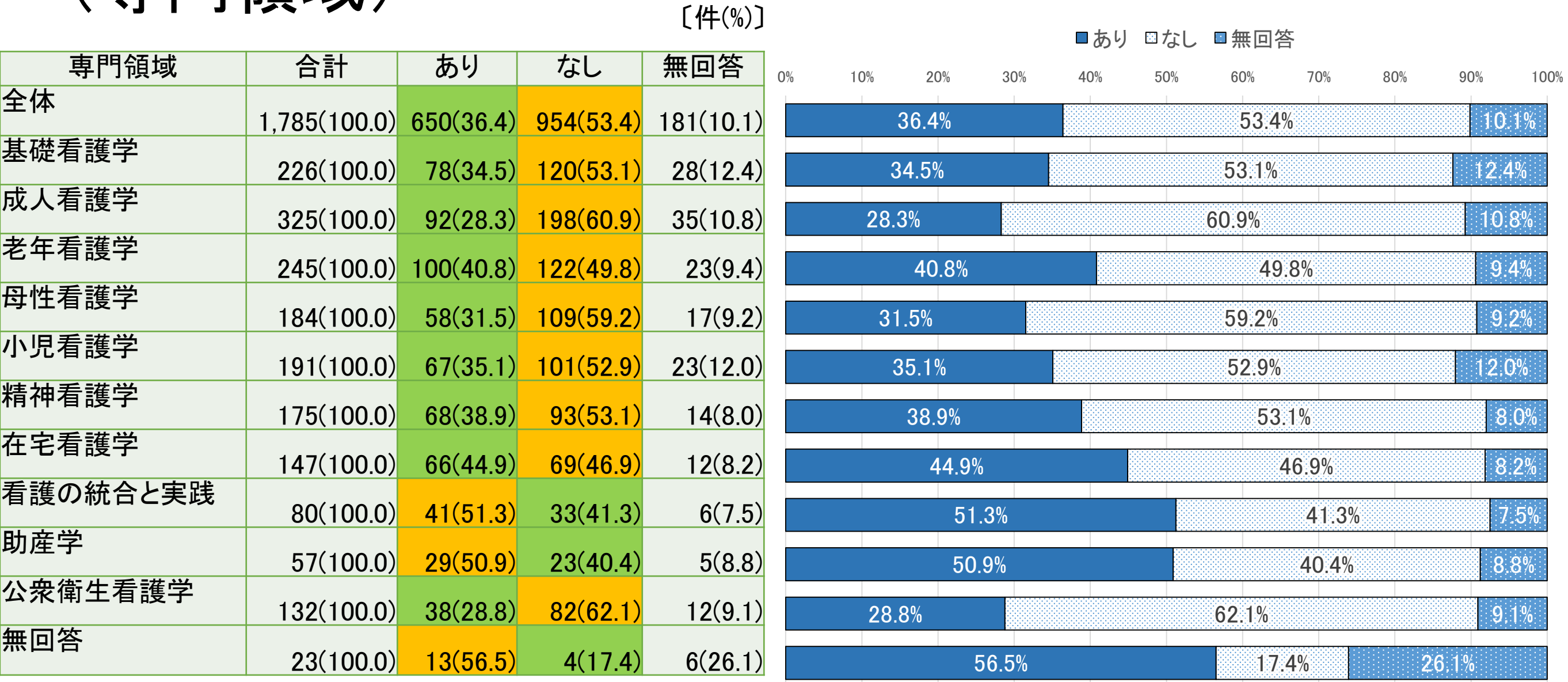
実習の変更を予定している場合：実習施設を変更 (全体)

実習施設を変更	n	%
あり	650	36.4%
なし	954	53.4%
無回答	181	10.1%
非該当	355	
全体	1,785	100.0%

実習施設の変更ありは、650件(36.4%)であった。



実習の変更を予定している場合：実習施設を変更 (専門領域)

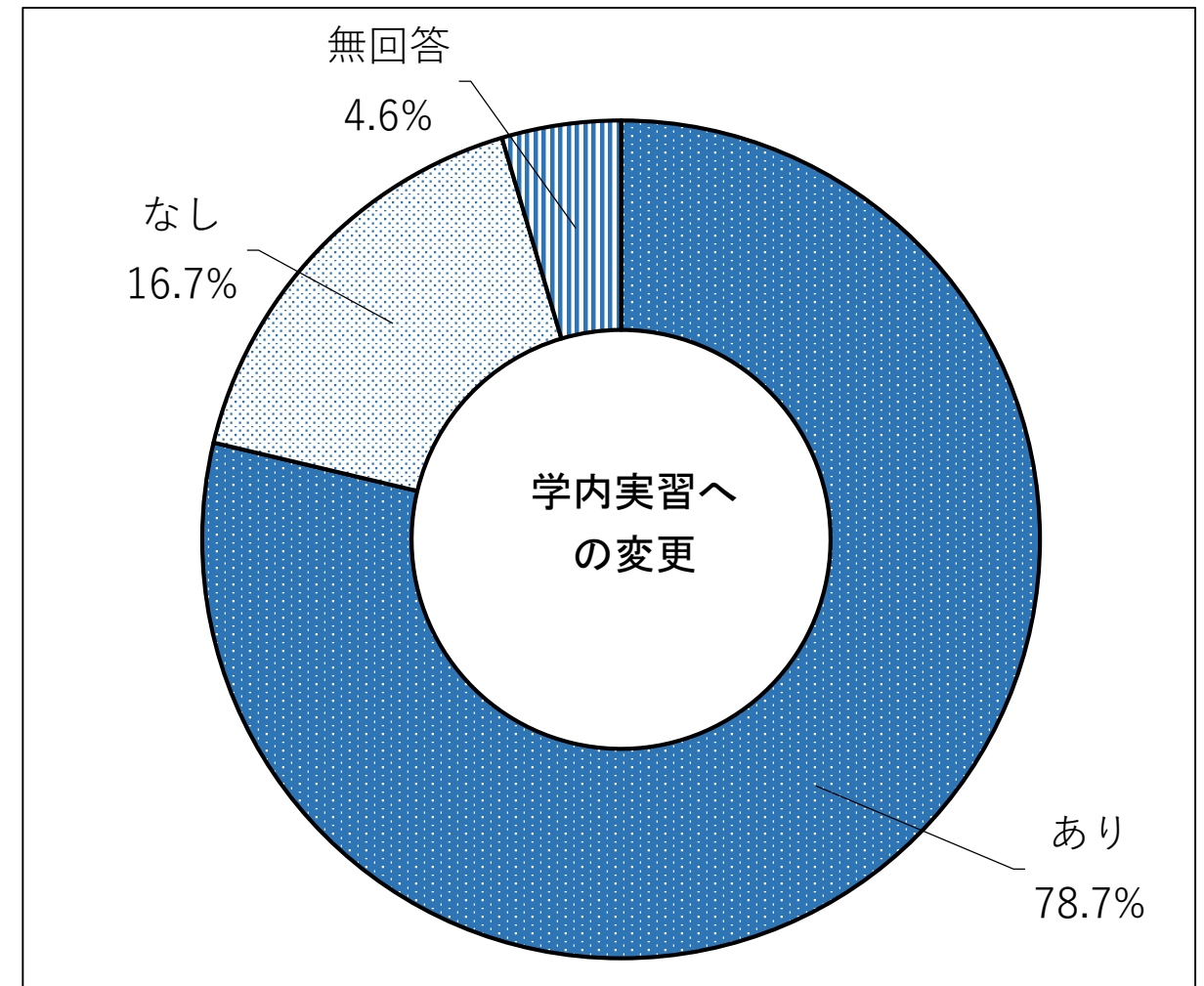


専門領域別にみると実習施設の変更ありの上位3位は、看護の統合と実践41件(51.3%)、助産学29(50.9%)、在宅看護学66件(44.9%)であった。¹⁴
〔色分け〕オレンジ：第1位、グリーン：第2位

実習の変更を予定している場合：学内実習への変更（全体）

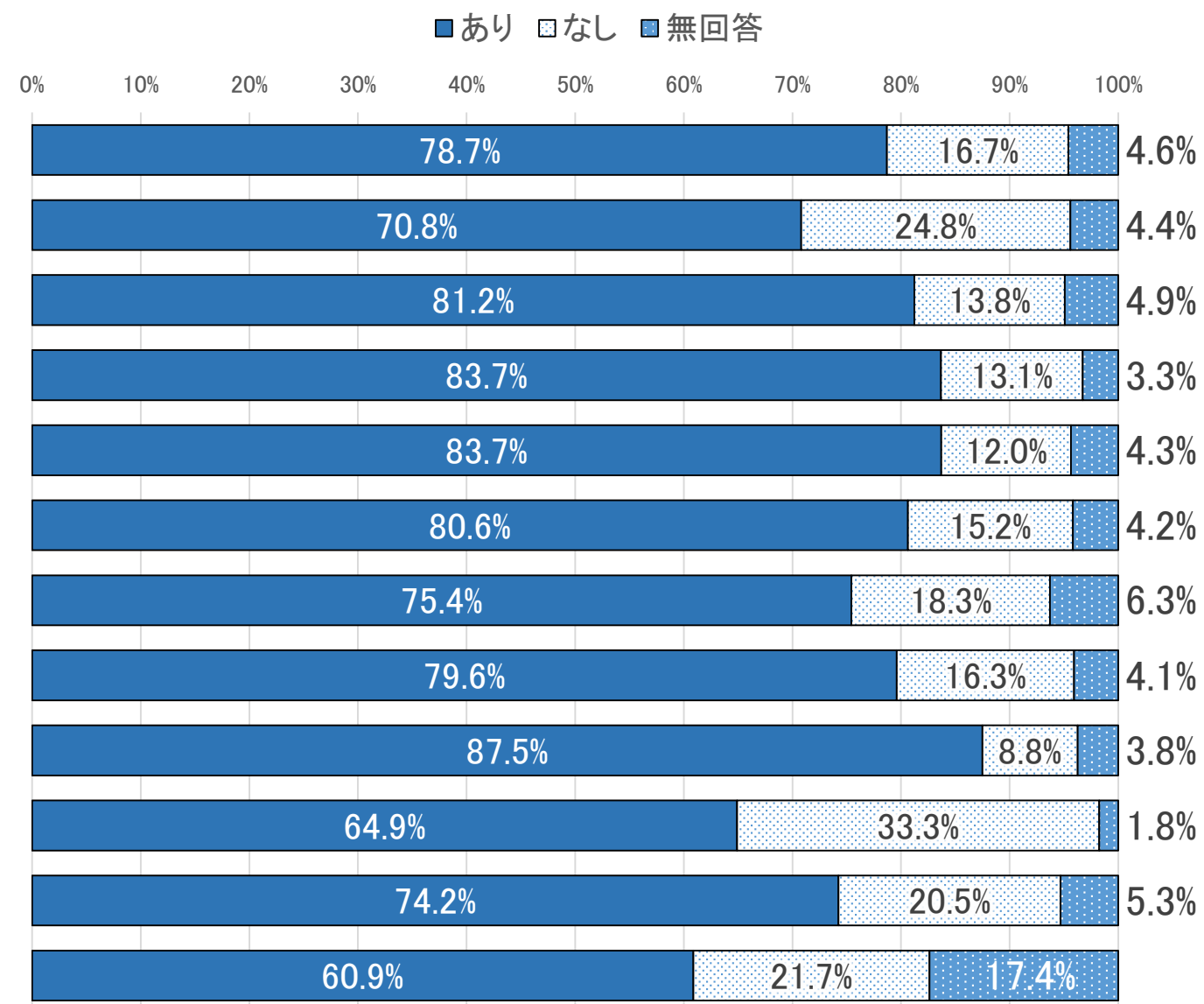
学内実習への変更	n	%
あり	1,405	78.7%
なし	298	16.7%
無回答	82	4.6%
非該当	355	
全体	1,785	100.0%

学内実習への変更ありは、1,405件(78.7%)であった。



実習の変更を予定している場合：学内実習への変更 （専門領域）

専門領域	合計	あり	なし	無回答
全体	1,785(100.0)	1,405(78.7)	298(16.7)	82(4.6)
基礎看護学	226(100.0)	160(70.8)	56(24.8)	10(4.4)
成人看護学	325(100.0)	264(81.2)	45(13.8)	16(4.9)
老年看護学	245(100.0)	205(83.7)	32(13.1)	8(3.3)
母性看護学	184(100.0)	154(83.7)	22(12.0)	8(4.3)
小児看護学	191(100.0)	154(80.6)	29(15.2)	8(4.2)
精神看護学	175(100.0)	132(75.4)	32(18.3)	11(6.3)
在宅看護学	147(100.0)	117(79.6)	24(16.3)	6(4.1)
看護の統合と実践	80(100.0)	70(87.5)	7(8.8)	3(3.8)
助産学	57(100.0)	37(64.9)	19(33.3)	1(1.8)
公衆衛生看護学	132(100.0)	98(74.2)	27(20.5)	7(5.3)
無回答	23(100.0)	14(60.9)	5(21.7)	4(17.4)



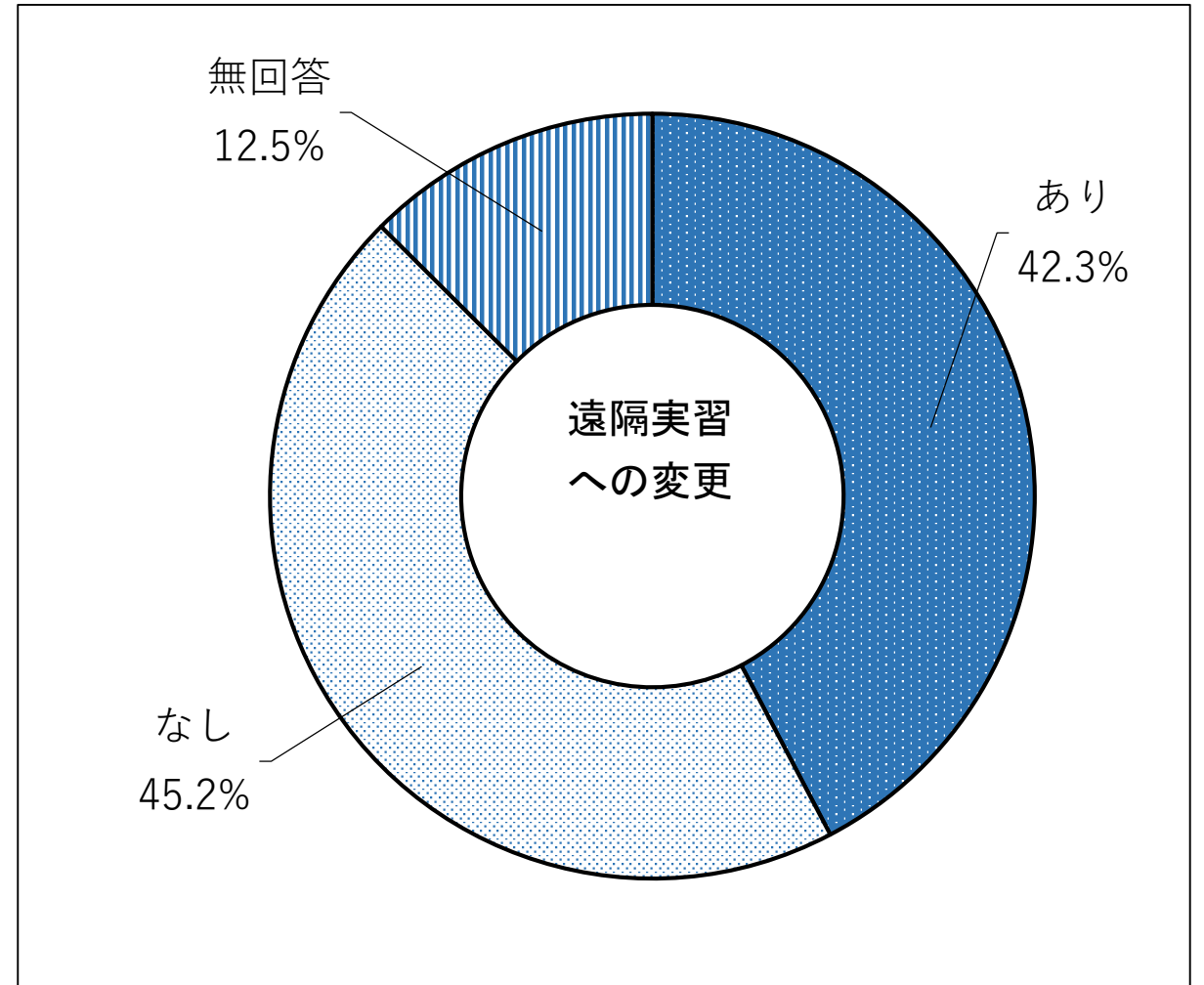
専門領域別にみると学内実習への変更ありの上位3位は、看護の統合と実践70件(87.5%)、老年看護学205(83.7%)、母性看護学154件(83.7%)であった。

16
 〔色分け〕オレンジ：第1位、グリーン：第2位

実習の変更を予定している場合：遠隔実習への変更（全体）

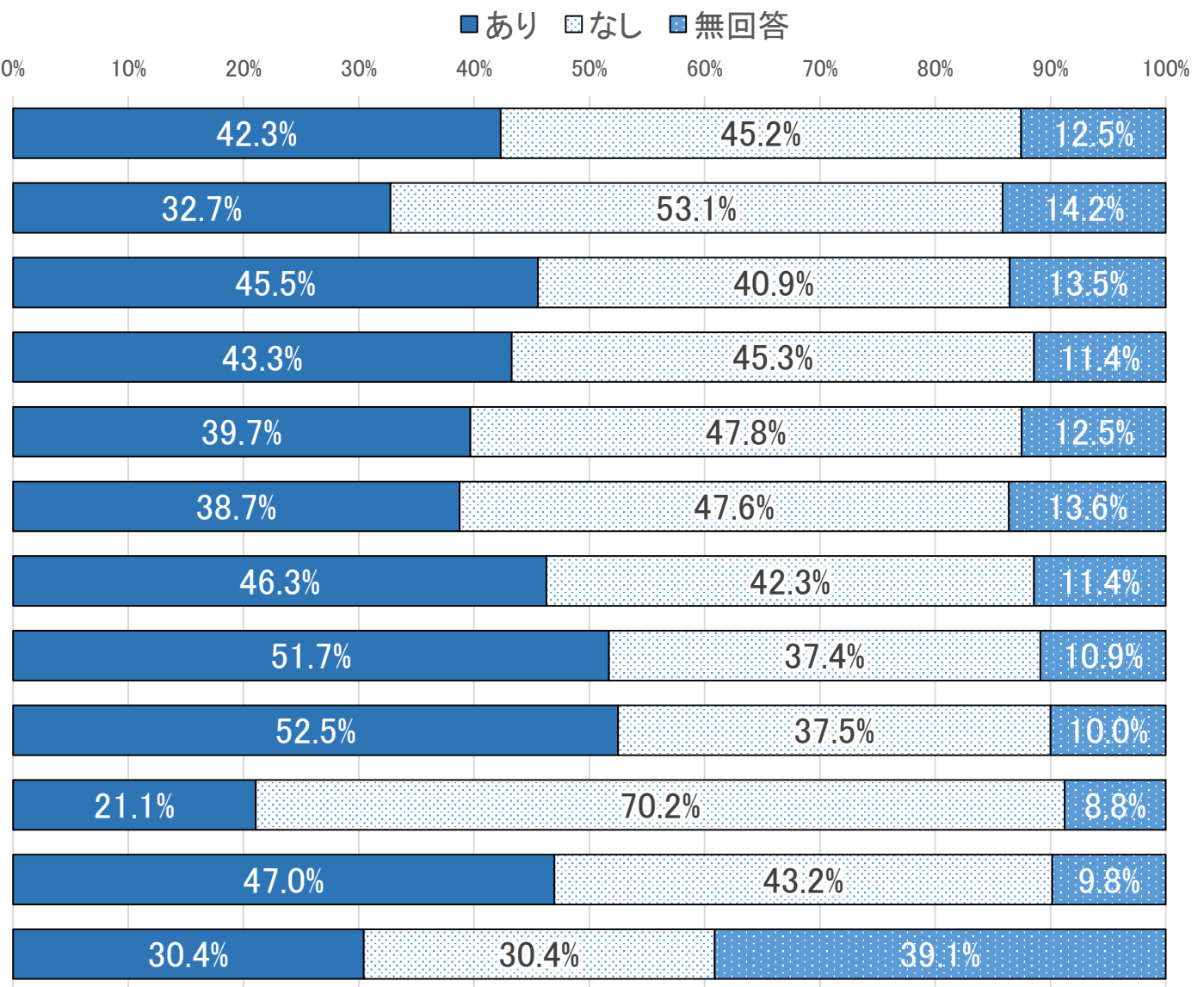
遠隔実習への変更	n	%
あり	755	42.3%
なし	806	45.2%
無回答	224	12.5%
非該当	355	
全体	1,785	100.0%

遠隔実習への変更ありは、755件(42.3%)であった。



実習の変更を予定している場合：遠隔実習への変更 (専門領域)

専門領域	合計	あり	なし	無回答
全体	1,785(100.0)	755(42.3)	806(45.2)	224(12.5)
基礎看護学	226(100.0)	74(32.7)	120(53.1)	32(14.2)
成人看護学	325(100.0)	148(45.5)	133(40.9)	44(13.5)
老年看護学	245(100.0)	106(43.3)	111(45.3)	28(11.4)
母性看護学	184(100.0)	73(39.7)	88(47.8)	23(12.5)
小児看護学	191(100.0)	74(38.7)	91(47.6)	26(13.6)
精神看護学	175(100.0)	81(46.3)	74(42.3)	20(11.4)
在宅看護学	147(100.0)	76(51.7)	55(37.4)	16(10.9)
看護の統合と実践	80(100.0)	42(52.5)	30(37.5)	8(10.0)
助産学	57(100.0)	12(21.1)	40(70.2)	5(8.8)
公衆衛生看護学	132(100.0)	62(47.0)	57(43.2)	13(9.8)
無回答	23(100.0)	7(30.4)	7(30.4)	9(39.1)



専門領域別にみると学内実習への変更ありの上位3位は、看護の統合と実践42件(52.5%)、在宅看護学76(51.7%)、公衆衛生看護学62件(47.0%)であった。

コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか

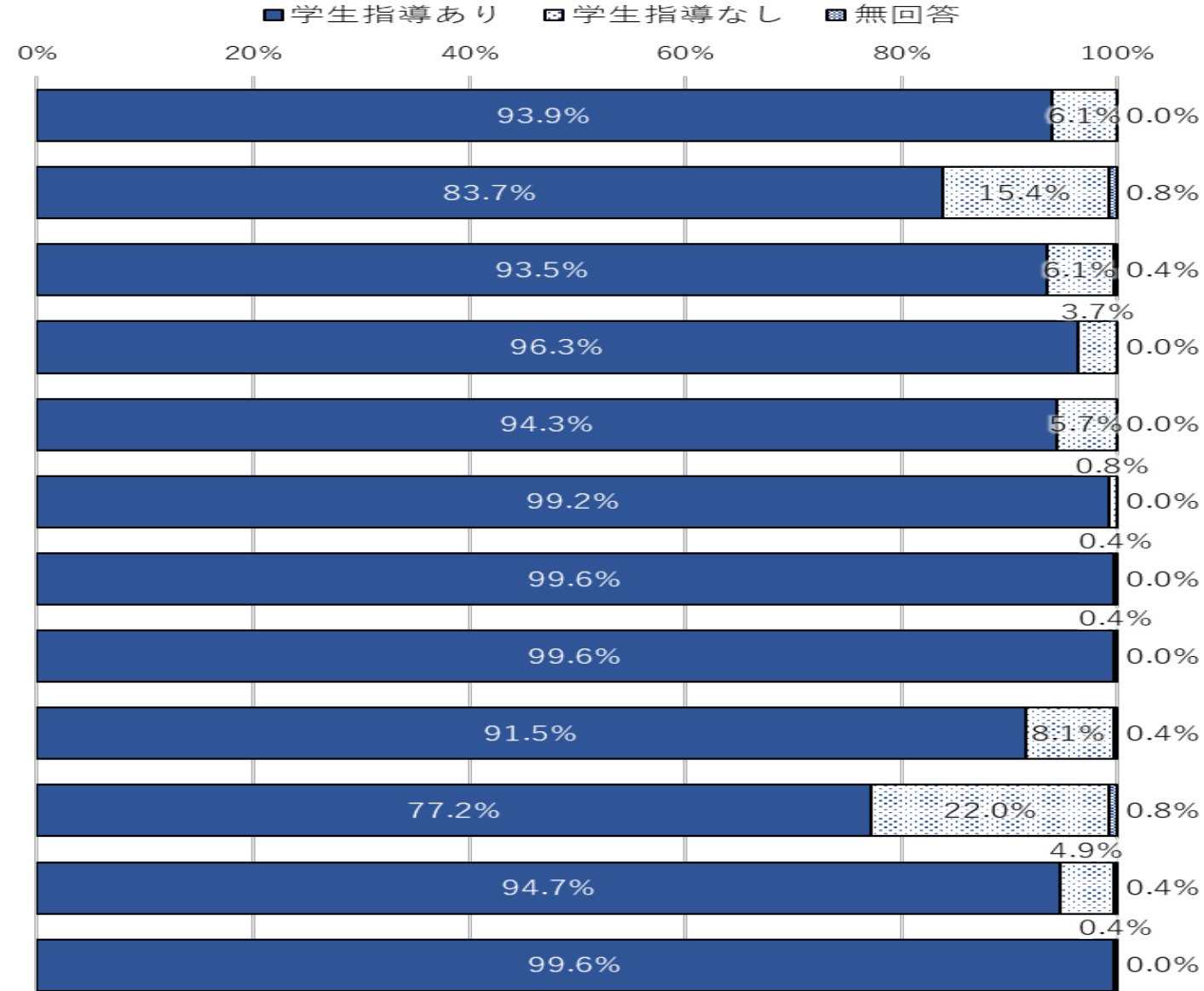
【調査A内容】

Ⅱ．臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整について
お聞かせください。

1. 臨地実習に向けて、学生指導で行っているもの

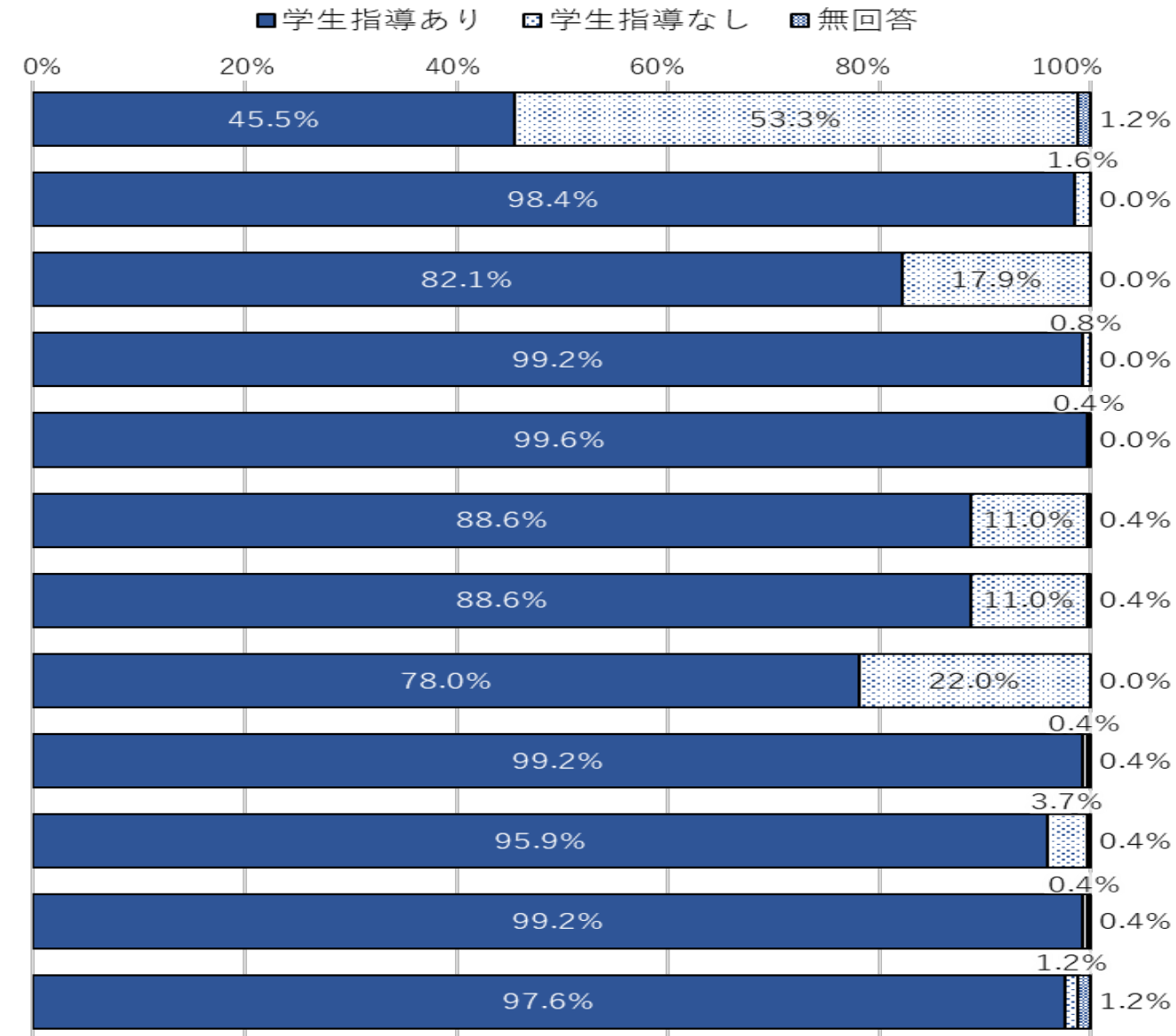
臨地実習に向けて、学生指導で行っているもの

臨地実習向け、学生指導で行っているもの	全体	学生指導 あり	学生指導 なし	無回答
感染拡大地域への移動自粛もしくは禁止	246	231	15	0
	100.0%	93.9%	6.1%	0.0%
感染拡大地域への移動に伴う学内・実習施設立ち入り禁止	246	206	38	2
	100.0%	83.7%	15.4%	0.8%
課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動など)の自粛もしくは禁止	246	230	15	1
	100.0%	93.5%	6.1%	0.4%
行事・集会への参加自粛もしくは禁止	246	237	9	0
	100.0%	96.3%	3.7%	0.0%
アルバイトの自粛もしくは禁止	246	232	14	0
	100.0%	94.3%	5.7%	0.0%
集団での飲食自粛もしくは禁止	246	244	2	0
	100.0%	99.2%	0.8%	0.0%
毎日の健康チェック	246	245	1	0
	100.0%	99.6%	0.4%	0.0%
体調不良・発熱時の大学への報告	246	245	1	0
	100.0%	99.6%	0.4%	0.0%
行動記録表のチェック	246	225	20	1
	100.0%	91.5%	8.1%	0.4%
行動記録表の大学への提出	246	190	54	2
	100.0%	77.2%	22.0%	0.8%
健康管理(休息、運動、栄養)	246	233	12	1
	100.0%	94.7%	4.9%	0.4%
濃厚接触者、感染者が身近に発生した場合の大学への報告	246	245	1	0
	100.0%	99.6%	0.4%	0.0%



臨地実習に向けて、学生指導で行っているもの (続き)

臨地実習向け、学生指導で行っているもの	全体	学生指導 あり	学生指導 なし	無回答
PCR検査等の実施と実習施設への証明書報告	246	112	131	3
	100.0%	45.5%	53.3%	1.2%
予防接種の実施(インフルエンザ、小児感染症に関するもの等)	246	242	4	0
	100.0%	98.4%	1.6%	0.0%
感染予防行動のための講話など	246	202	44	0
	100.0%	82.1%	17.9%	0.0%
実習に向けた感染予防オリエンテーション	246	244	2	0
	100.0%	99.2%	0.8%	0.0%
マスク着用、手洗い(手指消毒含む)の推奨	246	245	1	0
	100.0%	99.6%	0.4%	0.0%
マスク、手指消毒剤などの購入推奨	246	218	27	1
	100.0%	88.6%	11.0%	0.4%
公共交通機関利用時の注意事項	246	218	27	1
	100.0%	88.6%	11.0%	0.4%
実習着の洗濯	246	192	54	0
	100.0%	78.0%	22.0%	0.0%
教室・実習室での感染対策	246	244	1	1
	100.0%	99.2%	0.4%	0.4%
学内更衣室での感染対策	246	236	9	1
	100.0%	95.9%	3.7%	0.4%
学内昼食場所での感染対策	246	244	1	1
	100.0%	99.2%	0.4%	0.4%
学生自習室での感染対策	246	240	3	3
	100.0%	97.6%	1.2%	1.2%



臨地実習に向けて、学生指導で行っているもの (自由記述)

- 自由記述には64大学から記載があった。うち、前述の学生指導以外の内容が記載されていたものは、次の通りである。

記述内容	記述大学
マスク・手指消毒剤・フェイスシールド等は学部でまとめて購入し、学生に配布	13
臨地実習の基本方針やマニュアルを教員用、学生用の冊子を作成、保護者への周知	10
健康状態はスマホアプリで入力	2
大学へ入構する学生数の制限と調整	2
実習に出ていない学年との学内のゾーニング	1
教職員の目が行き届かない実習室の閉鎖	1
環境整備 換気設備の設置	1
学内更衣室の利用を禁止	1
附属病院看護部(教育担当副看護部長)と学部長・教務委員長・副委員長で定期的に協議	1
県内の感染レベル対応に応じて、実習内容を区分したステップ判断基準を作成	1

記述内容	記述大学
行動記録表の実習施設への提出	1
健康状態や行動履歴の記入を指導、未記入への個別指導	1
マスクの種類と推奨されるマスクの説明	1
感染予防対策を実行して実習に臨むことの誓約書の提出	1
学生間で実習時の感染対策について討議させた	1
実習時に使用するテキストの利用方法	1
COVID-19対応の保険加入	1
アルバイトの自粛、行事・集会への参加自粛について、保護者への協力要請	1
新型コロナ感染対策プロジェクト委員会による感染対策及び学生指導	1
臨地実習施設への実習中に感染する可能性があることの承諾書提出、学生と保護者への説明	1
PCR検査に伴う費用負担(教育後援会負担)	1

【まとめ】コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか

①9月以降の実習科目において、83.4%の大学が変更を予定していた。

②変更予定の実習科目は、在宅看護学89.1%、老年看護学88.8%、小児看護学84.5%の順に多く、変更予定の割合が低かったものは、助産学77.0%、基礎看護学80.1%、公衆衛生看護学81.5%の順であった。いずれの専門領域もほぼ8割以上が変更を予定しており、変更予定の割合が高いものは、在宅看護学や老年看護学など、地域や施設など対象の生活の場における看護実践を想定する専門領域であった。一方、変更予定の割合が低かったのは、分娩件数の確保などの規定がある助産学であった。

【まとめ】コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか

③変更予定の内容は、臨地の日数・時間の短縮が79.8%、学内実習への変更が78.7%、遠隔実習への変更が42.3%、実習時期の変更・延期が39.0%、実習施設の変更が36.4%であった。これらの結果から、多くの看護系大学は、できるだけ臨地での実習が出来るように日数・時間の調整をしたこと、次に学内実習への変更を対応していたが、遠隔実習への変更をせざるを得なかった実習科目もあったことがわかる。実習時期の変更・延期、実習施設の変更は30%台であり、調整上、変更できる大学は多くはなかったと予測できる。

④臨地の日数・時間の短縮を予定しているのは、成人看護学86.8%、母性看護学85.3%、小児看護学82.2%の順に高かった。

【まとめ】コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか

⑤臨地での実習時期の変更・延期を予定しているのは、助産学59.6%、公衆衛生看護学56.8%、看護の統合と実践48.8%の順に高かった。これらは、選択科目であること、4年生での実習であることが共通している。

⑥実習施設の変更を予定しているのは、看護の統合と実践51.3%、助産学50.9%、在宅看護学44.9%の順に高かった。これらは、実習施設が医療機関に限局しないことや、1つの実習施設あたりの受け入れ人数が少ないことが特徴として考えられた。

⑦学内実習への変更を予定しているのは、看護の統合と実践87.5%、老年看護学と母性看護学が83.7%の順に高かった。

【まとめ】コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか

⑧遠隔実習への変更を予定しているのは、看護の統合と実践52.5%、在宅看護学51.7%、公衆衛生看護学47.0%の順に高かった。

⑨臨地実習に向けて、感染予防対策として、学生の行動や意識付け、実習時の感染対策を多くの大学が行っていた。大学によって実施の有無が分かれたものは、感染拡大地域への移動に伴う学内・実習施設への立ち入り禁止や行動記録表の大学への提出など学生の行動制限に伴うもの、PCR検査等の実施と実習施設への証明書報告、感染予防のための講話、実習着の洗濯などであった。

自由記述では、これらの項目以外に、マスク・手指消毒剤・フェイスシールド等の学生配布、新型コロナに対する臨地実習の基本方針やマニュアルの教員用・学生用作成と保護者への周知などが記述されていた。

【まとめ】コロナ禍の中、学生たちは、どのように指導されたのか

以上、コロナ禍の中、ほとんどの大学では、臨地での実習機会が困難になった。専門領域による相違がみられるが多くの看護系大学は、できるだけ臨地での実習が出来るように臨地での日数・時間の調整、学内実習への変更で対応し、遠隔実習で対応した大学もあった。実習時期の変更・延期、実習施設の変更は時間割や施設との調整上の困難のためか30%台と対応としては少なかった。

臨地実習先との調整内容 ～それでも実習が受け入れられなかったのは何が原因 なのか～

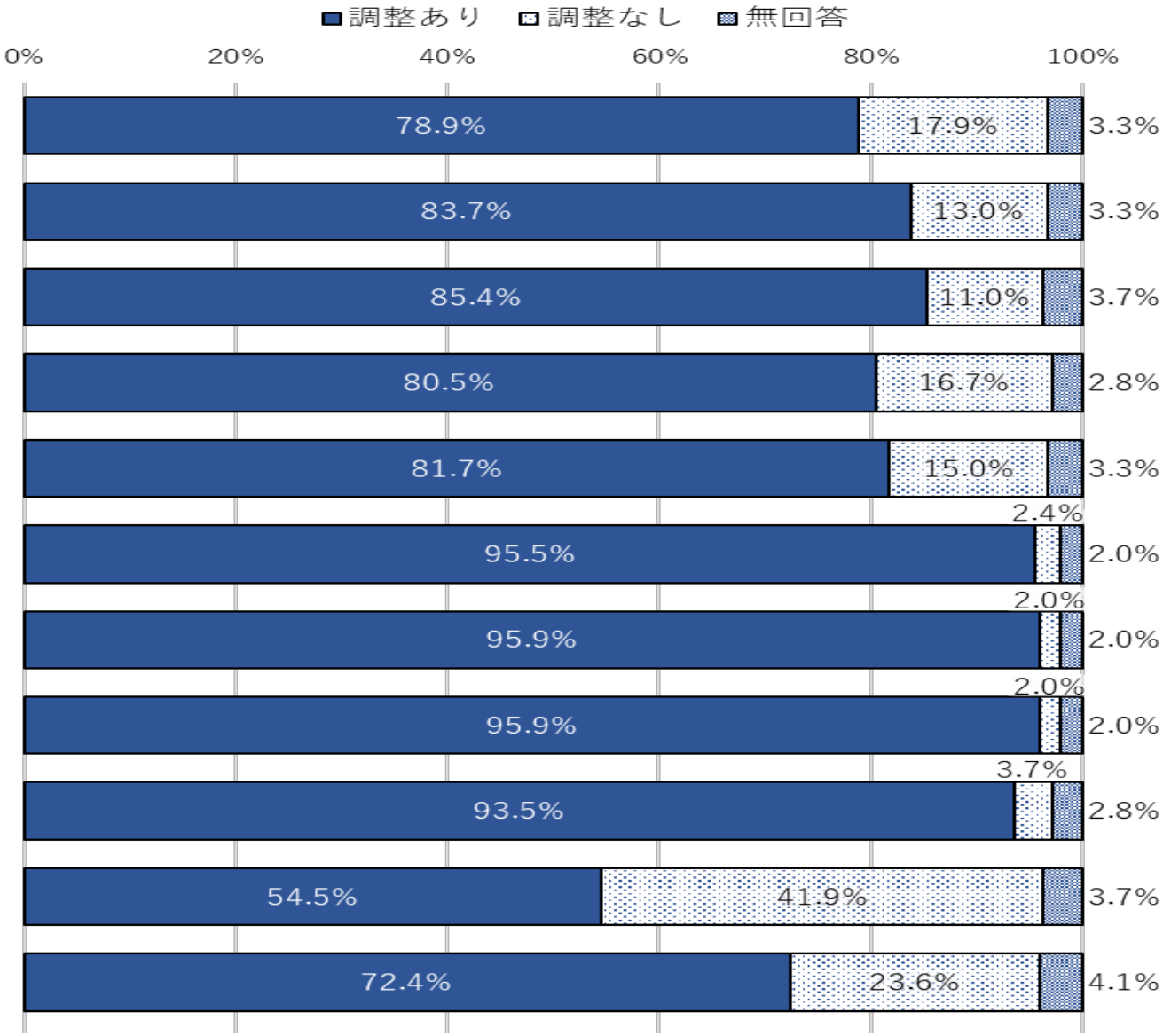
【調査A内容】

Ⅱ．臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

2. 感染予防のために実習施設と調整していること
3. COVID-19 流行による看護学実習経費への影響についてお答えください。
 - 1) 学生が実習で使用する主な感染防護用具の購入者にチェックください。
 - 2) 実習に関連する経常経費予算の執行額の変化についてチェックください

感染予防のために実習施設と調整していること

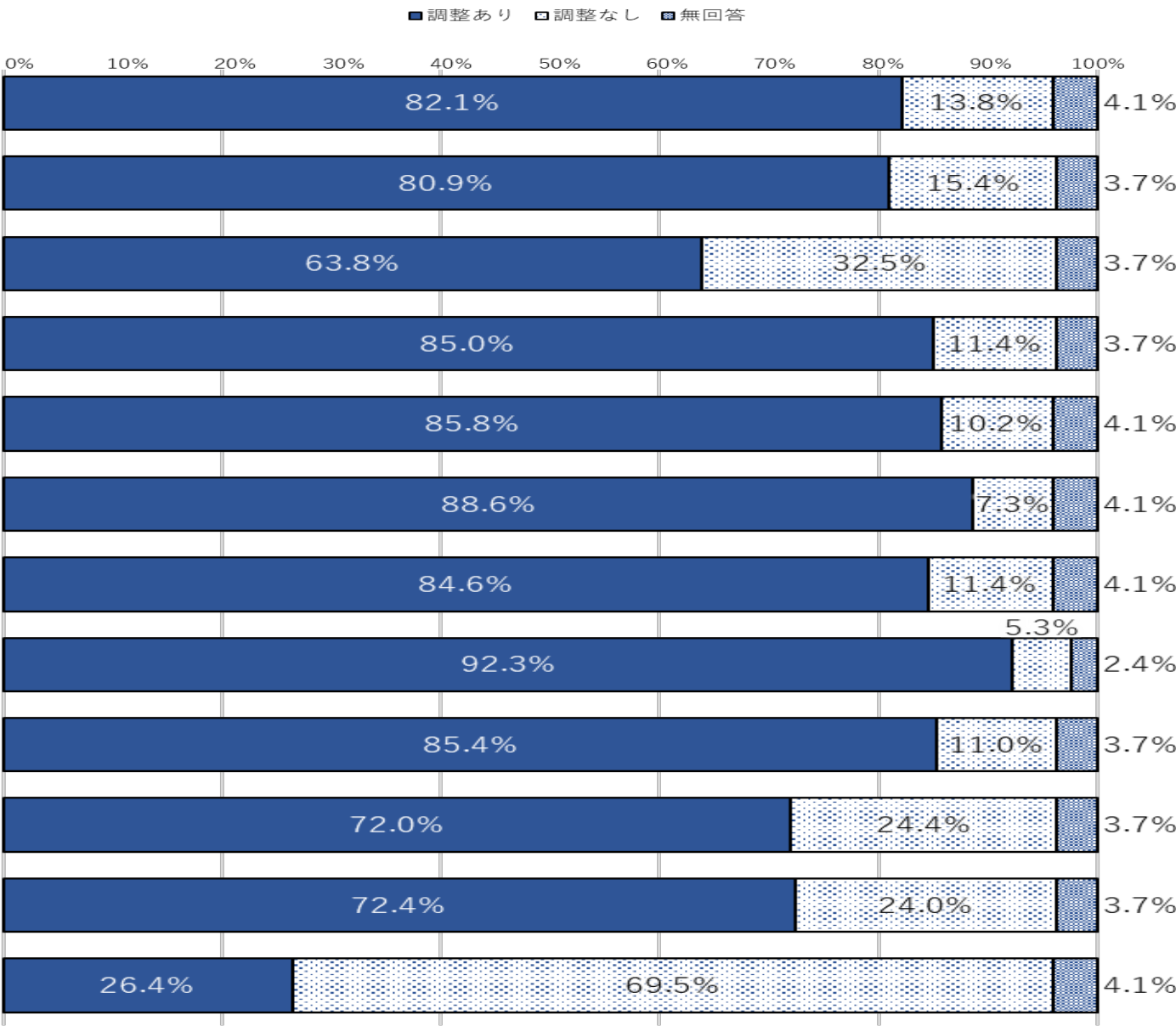
感染予防のための実習施設との調整	全体	調整あり	調整なし	無回答
実習時期	246	194	44	8
	100.0%	78.9%	17.9%	3.3%
受け入れ人数	246	206	32	8
	100.0%	83.7%	13.0%	3.3%
受け入れ日数	246	210	27	9
	100.0%	85.4%	11.0%	3.7%
実習時間(臨地での実習時間、開始時間・終了時間など)	246	198	41	7
	100.0%	80.5%	16.7%	2.8%
使用病棟・部署	246	201	37	8
	100.0%	81.7%	15.0%	3.3%
学生の体調管理方法	246	235	6	5
	100.0%	95.5%	2.4%	2.0%
学生の実習可否判断基準(発熱、自覚症状、健康観察の結果、行動履歴など)	246	236	5	5
	100.0%	95.9%	2.0%	2.0%
学生が感染もしくは、濃厚接触者になった場合の対応方法	246	236	5	5
	100.0%	95.9%	2.0%	2.0%
学生の実習時間外の過ごし方(都道府県外への外出、アルバイト等)	246	230	9	7
	100.0%	93.5%	3.7%	2.8%
PCR検査等の実施と結果の開示	246	134	103	9
	100.0%	54.5%	41.9%	3.7%
受け持ち患者	246	178	58	10
	100.0%	72.4%	23.6%	4.1%



[色分け]オレンジ: 第1位、グリーン: 第2位

感染予防のために実習施設と調整していること(続き)

感染予防のための実習施設との調整	全体	調整あり	調整なし	無回答
実習方法の調整(申し送り参加、看護ケア方法、見学への変更など)	246	202	34	10
	100.0%	82.1%	13.8%	4.1%
カンファレンス開催方法	246	199	38	9
	100.0%	80.9%	15.4%	3.7%
電子カルテならびにカルテ室の使用方 法	246	157	80	9
	100.0%	63.8%	32.5%	3.7%
学生記録場所の確保と3密対策	246	209	28	9
	100.0%	85.0%	11.4%	3.7%
学生更衣場所の確保と3密対策	246	211	25	10
	100.0%	85.8%	10.2%	4.1%
学生昼食場所の確保と3密対策	246	218	18	10
	100.0%	88.6%	7.3%	4.1%
学生が使用する更衣室・昼食場所等の 消毒	246	208	28	10
	100.0%	84.6%	11.4%	4.1%
感染防護用具の準備	246	227	13	6
	100.0%	92.3%	5.3%	2.4%
実習施設への入室方法(入り口、入室 時の健康チェックなど)	246	210	27	9
	100.0%	85.4%	11.0%	3.7%
実習施設設備の使用方 法(エレベーター、廊下、売店など)	246	177	60	9
	100.0%	72.0%	24.4%	3.7%
実習施設の移動可能場所、病棟までの 通路など	246	178	59	9
	100.0%	72.4%	24.0%	3.7%
実習委託費の変更	246	65	171	10
	100.0%	26.4%	69.5%	4.1%



臨地実習向けて、実習施設と調整・確認していること(自由記述)

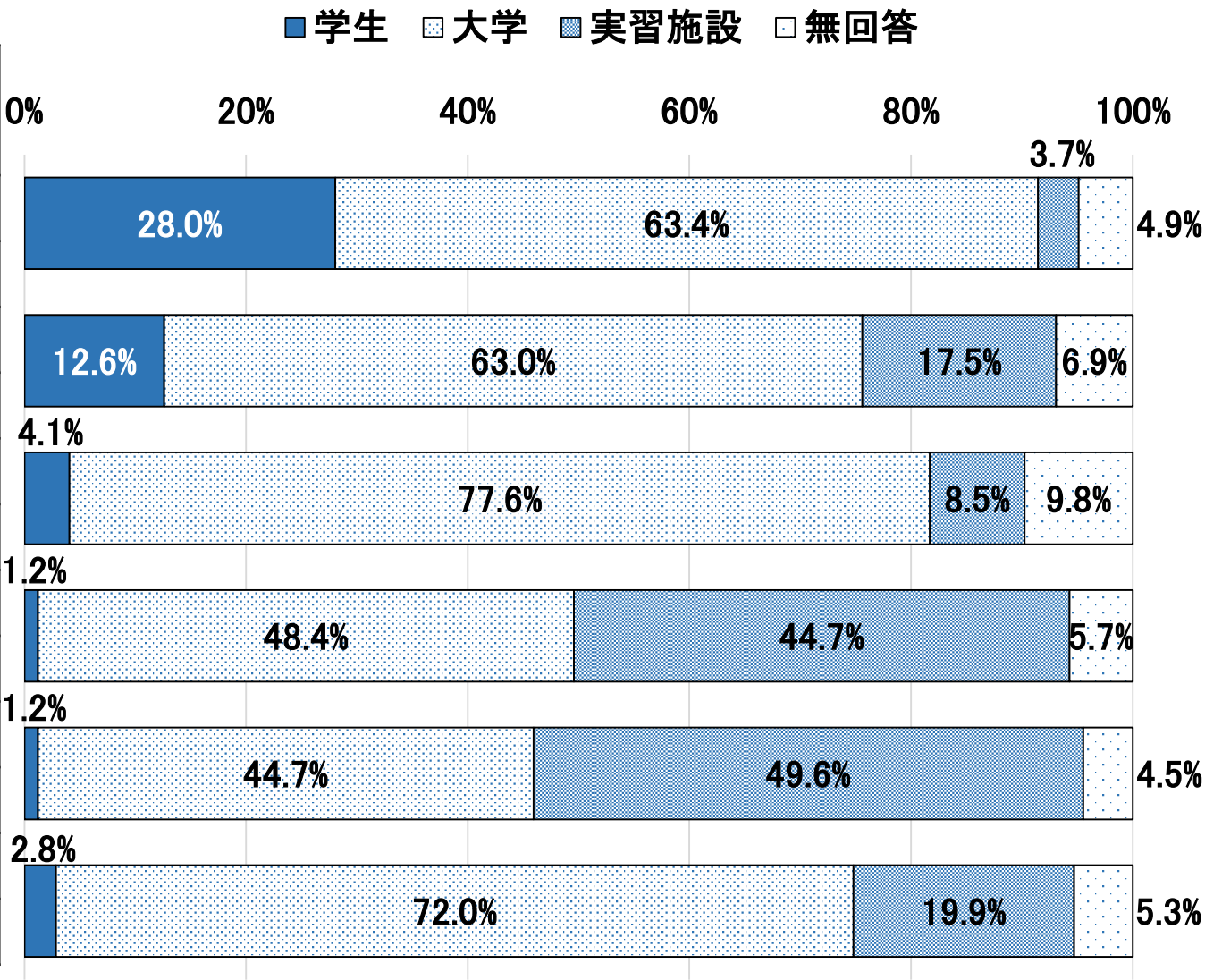
- 自由記述には64大学から記載があった。うち、前述の調整・確認以外の内容が記載されていたものは、次の通りである。

記述内容	記述大学
カンファレンスのオンライン化	2
PCR検査費用負担	2
実習施設のある市町村でCOVID-19感染者がでた場合の対応	1
臨地実習中に実習中止と判断する基準	1
各学生の誓約書提出。疑義の有る場合の実習受け入れ中止について	1
病院によるオンライン用オリエンテーションDVDの作成	1
一度に病棟に行く人数の調整	1
教員と実習施設の調整においても電話あるいはメールでやり取りする	1

記述内容	記述大学
学生が実習施設（病棟）内に持ち込むことが可能な物品の確認（持ち込み物品の制限）	1
同居した家族が発熱した場合の対応	1
マスクの交換頻度と廃棄について（午前・午後で交換とし、病院内で廃棄処理、通学時のマスクは別ものを使用）	1
「看護学実習におけるCOVID-19感染対策マニュアル」作成への助言	1
受け持ち患者以外の接触記録、臨地実習中のおよその行動記録の提出	1
各教員が実習病院でこれから注意する事項について「チェックリスト表」の作成	1
多床室の同室患者への説明	1

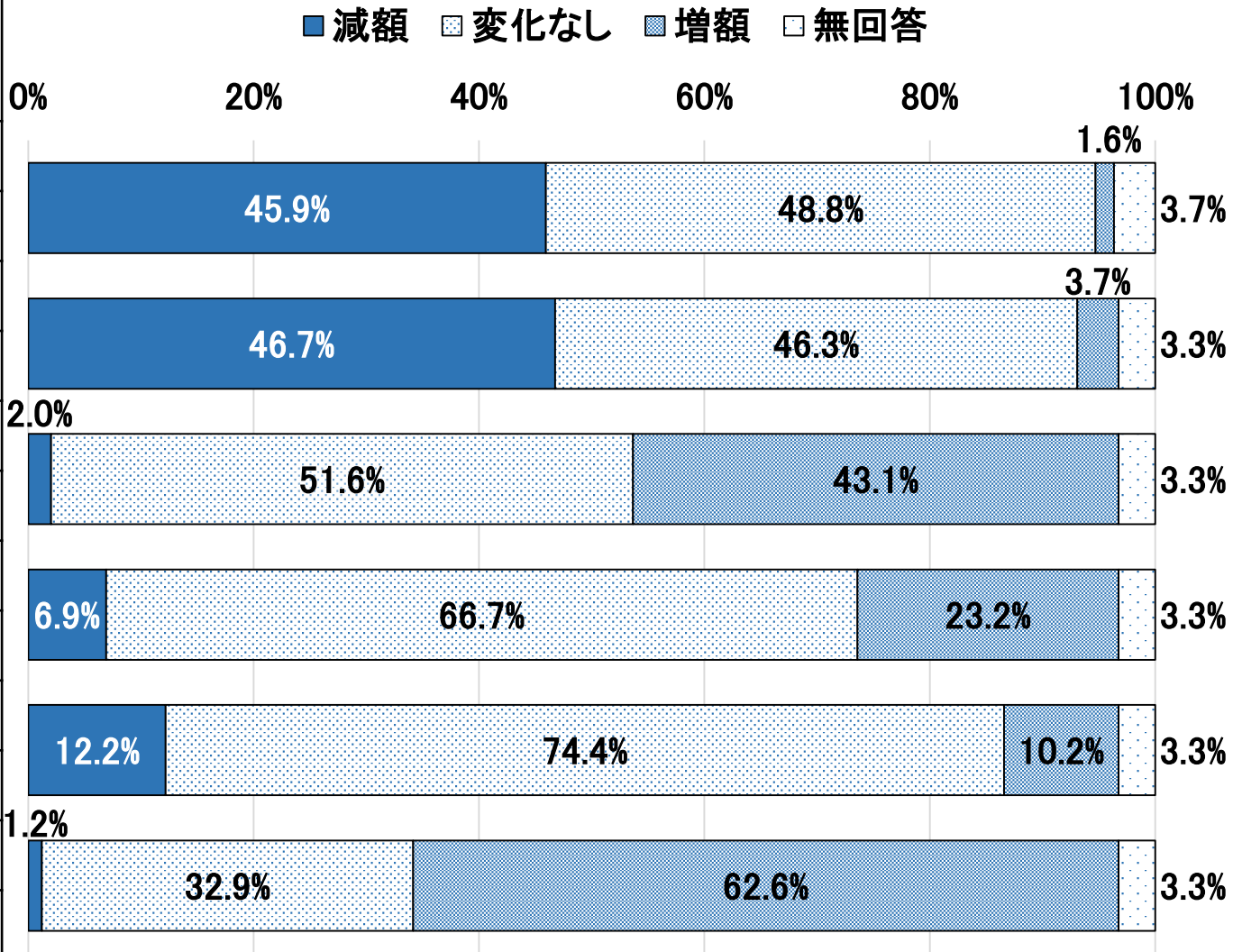
学生が実習で使用する主な感染防護用具の購入者

感染防護用具の購入者	全体	学生	大学	実習施設	無回答
実習時のマスク	246	69	156	9	12
	100.0%	28.0%	63.4%	3.7%	4.9%
患者ケア時のサージカルマスク	246	31	155	43	17
	100.0%	12.6%	63.0%	17.5%	6.9%
フェイスシールド	246	10	191	21	24
	100.0%	4.1%	77.6%	8.5%	9.8%
使い捨てエプロン	246	3	119	110	14
	100.0%	1.2%	48.4%	44.7%	5.7%
使い捨て手袋	246	3	110	122	11
	100.0%	1.2%	44.7%	49.6%	4.5%
速乾性手指消毒剤	246	7	177	49	13
	100.0%	2.8%	72.0%	19.9%	5.3%



実習に関連する経常経費予算の執行額の変化

実習に関連する経常経費予算の執行額	全体	減額	変化なし	増額	無回答
実習委託費	246	113	120	4	9
	100.0%	45.9%	48.8%	1.6%	3.7%
学生・教員の実習に伴う旅費	246	115	114	9	8
	100.0%	46.7%	46.3%	3.7%	3.3%
通信費(郵送、電話、インターネット回線費用など)	246	5	127	106	8
	100.0%	2.0%	51.6%	43.1%	3.3%
消耗品(文房具、コピー代など)	246	17	164	57	8
	100.0%	6.9%	66.7%	23.2%	3.3%
人件費	246	30	183	25	8
	100.0%	12.2%	74.4%	10.2%	3.3%
教材費(書籍、視聴覚教材、実習室物品など)	246	3	81	154	8
	100.0%	1.2%	32.9%	62.6%	3.3%



【まとめ】臨地実習先との調整内容

～それでも実習が受け入れられなかったのは
何が原因なのか～

①学生の体調管理、実習可否の判断、学生が感染した場合の対応方法等、実習での感染対策について多くの大学が実習施設と調整していた。

②調整内容は、受け入れ日数85.4%、受け入れ人数83.7%、実習時期78.9%であり、ほとんどの大学が実施していた。調整していない大学は予定通り実施していたのか、調整の余地なく中止になったのかその背景まではわからない。

③実習施設との調整内容で実施割合が低かったものは、PCR検査等の実施と結果の開示54.5%、実習委託費の変更26.4%であった。

④実習時に使用する主な感染防護用具について、大学が購入している割合が高いものは、フェイスシールド77.6%、速乾性手指消毒剤72.0%、実習時のマスク63.4%、サージカルマスク63.0%の順で高い割合であった。実習施設が購入している割合が高いものは、使い捨て手袋49.6%、使い捨てエプロン44.7%であった。

自由記述では、実習施設からフェイスシールド等を準備するように要請があったが、準備が困難であったと記述されていた。

⑤自由記述では、上記の項目以外に、カンファレンスのオンライン化、PCR検査費用負担について調整していることや、PCR検査等の実施と結果の開示は実習施設から要望があった場合のみであること、また要望があっても実施できないこともあることが記述されていた。

これらは、実習内容・方法、実習施設の設備が異なることや、PCR検査などは大学での準備可能性など大学の体制が影響していると考えられた。

以上、各大学は、実習予定の変更を余儀なくされる中、実習施設と時期・受け入れ人数・日数の調整だけでなく、学生の体調管理、実習可否の判断、学生が感染した場合の対応方法等、実習に向けて考えられるあらゆる感染対策について調整していた。

大学の責任者は、今回の臨地実習への影響で、
何を問題点として指摘したか？
今後どのような実習の在り方を考えているのか？

【調査A内容】

COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

【まとめ】大学の責任者は、今回の臨地実習への影響で、何を問題点として指摘したか？今後どのような実習の在り方を考えているのか？

最後の自由記述の中から、まとめたものである。大きく5つにまとめることができた。一つ目が、今回コロナの影響を受けて実習が中止になった4年生のことであった。実践力の不足を心配していた。また、この現状を新人看護師として受け入れる病院がどこまで認識しているのか、新人教育体制がどのようなものであるかの不安が述べられていた。

次にコロナ禍での実習で何ができなかったかが述べられていた。3番目が学生に関するもので、コロナ禍で臨地実習等で厳しい健康管理、感染対策と感染防護具等の費用の増大であった。さらに臨地実習遂行のための調整、学内実習、遠隔実習の準備における教員のエフォートが大きいことが述べられていた。

最後は、これからの臨地実習をどのように行うか。元に戻ることはなく、今回の方法の評価が必要ではないかというような意見が述べられていた。

【まとめ】大学の責任者は、今回の臨地実習への影響で、何を問題点として指摘したか？今後どのような実習の在り方を考えているのか？

➤新人看護師になることの不安

- 看護実践能力の修得不足（未熟な看護実践を患者に提供する）
- 現4年生、3年生も臨地実習ができていない
- 就職先病院等の看護教育の現状認識の不足および新人教育体制への心配
- 卒業生に対する大学独自の追実習が必要ではないか

➤コロナ禍での臨地実習の現状

- 学生の直接ケアの制限（見学実習、シャドーイング、カンファレンスのみ）
- 実践能力（対象把握能力、状況・患者の変化対応能力、社会性能力、コミュニケーション能力）の低下および看護職や多職種との連携・交渉能力の低下

【まとめ】大学の責任者は、今回の臨地実習への影響で、何を問題点として指摘したか？今後どのような実習の在り方を考えているのか？

- コロナ禍での実習に対する学生の反応
 - やるべきではなかったという意見（感染する、家族との関係）
 - オンライン実習は学生を疲弊させた。長い自粛による学生の体力低下
 - アルバイト制限など2週間前行動制限。感染管理の厳格さ
 - 実習前、実習中の感染・体調管理教育で欠席者が減った
 - コロナ感染対策のPPE、PCR検査などによる経費増大
- 臨地実習のための調整
 - 教科科目（実習施設）による臨地実習の困難感
 - 実習に臨むための施設との調整に時間がかかりすぎ
 - 学内実習などにより準備、実習そのものの教員負担の増大（エフォート↑）
 - 学生間の不公平感（実習ができた学生・できない学生）
 - 学生が実習することへの病院への苦情、受け持ち拒否
 - 自大学に附属病院を持っている大学は、比較的実習ができている

【まとめ】大学の責任者は、今回の臨地実習への影響で、何を問題点として指摘したか？今後どのような実習の在り方を考えているのか？

➤ 今後の臨地実習の在り方

- 単発ではなく、継続的に臨地実習の在り方を考える必要がある
- 臨地実習に対する具体的な体制作りの必要性
- 学内と臨地の組み合わせ実習が、今後の実践力の育成にどう影響するか経過を追う必要がある
- 教員の教材作成能力が求められる
- ディプロマ・ポリシーの再評価が必要
- 学内演習、実習の限界
- 代替えはうまくいったのではないか（模擬患者、オンライン臨床講義、シミュレーション、電子カルテ形式）

【資料】

- ・感染予防のために実習施設と調整していること
～「調査A_大学代表者」及び「調査B_実習科目
責任者」の結果比較
- ・設置ブロック別の臨地での実習状況

感染予防のために実習施設と調整していること ～「調査A_大学代表者」及び「調査B_実習科目責任者」の結果比較①～

感染予防のための実習施設との調整	A全体	A調整あり	A調整なし	A無回答
実習時期	246	194	44	8
	100.0%	78.9%	17.9%	3.3%
受け入れ人数	246	206	32	8
	100.0%	83.7%	13.0%	3.3%
受け入れ日数	246	210	27	9
	100.0%	85.4%	11.0%	3.7%
実習時間(臨地での実習時間、開始時間・終了時間など)	246	198	41	7
	100.0%	80.5%	16.7%	2.8%
使用病棟・部署	246	201	37	8
	100.0%	81.7%	15.0%	3.3%
学生の体調管理方法	246	235	6	5
	100.0%	95.5%	2.4%	2.0%
学生の実習可否判断基準(発熱、自覚症状、健康観察の結果、行動履歴など)	246	236	5	5
	100.0%	95.9%	2.0%	2.0%
学生が感染もしくは、濃厚接触者になった場合の対応方法	246	236	5	5
	100.0%	95.9%	2.0%	2.0%
学生の実習時間外の過ごし方(都道府県外への外出、アルバイト等)	246	230	9	7
	100.0%	93.5%	3.7%	2.8%
PCR検査等の実施と結果の開示	246	134	103	9
	100.0%	54.5%	41.9%	3.7%
受け持ち患者	246	178	58	10
	100.0%	72.4%	23.6%	4.1%

B全体	B調整あり	B調整なし	B無回答
1,483	728	393	362
100.0%	49.1%	26.5%	24.4%
1,483	746	367	370
100.0%	50.3%	24.7%	24.9%
1,483	839	274	370
100.0%	56.6%	18.5%	24.9%
1,483	833	279	371
100.0%	56.2%	18.8%	25.0%
1,483	666	431	386
100.0%	44.9%	29.1%	26.0%
1,483	1,026	86	371
100.0%	69.2%	5.8%	25.0%
1,483	1,021	90	372
100.0%	68.8%	6.1%	25.1%
1,483	1,010	99	374
100.0%	68.1%	6.7%	25.2%
1,483	1,003	105	375
100.0%	67.6%	7.1%	25.3%
1,483	499	591	393
100.0%	33.6%	39.9%	26.5%
1,483	683	387	413
100.0%	46.1%	26.1%	27.8%

感染予防のために実習施設と調整していること
～「調査A_大学代表者」及び「調査B_実習科目責任者」の結果比較②～

感染予防のための実習施設との調整	A全体	A調整あり	A調整なし	A無回答
実習方法の調整（申し送り参加、看護ケア方法、見学への変更など）	246	202	34	10
	100.0%	82.1%	13.8%	4.1%
カンファレンス開催方法	246	199	38	9
	100.0%	80.9%	15.4%	3.7%
電子カルテならびにカルテ室の使用方法	246	157	80	9
	100.0%	63.8%	32.5%	3.7%
学生記録場所の確保と3密対策	246	209	28	9
	100.0%	85.0%	11.4%	3.7%
学生更衣場所の確保と3密対策	246	211	25	10
	100.0%	85.8%	10.2%	4.1%
学生昼食場所の確保と3密対策	246	218	18	10
	100.0%	88.6%	7.3%	4.1%
学生が使用する更衣室・昼食場所等の消毒	246	208	28	10
	100.0%	84.6%	11.4%	4.1%
感染防護用具の準備	246	227	13	6
	100.0%	92.3%	5.3%	2.4%
実習施設への入室方法（入り口、入室時の健康チェックなど）	246	210	27	9
	100.0%	85.4%	11.0%	3.7%
実習施設設備の使用方法（エレベーター、廊下、売店など）	246	177	60	9
	100.0%	72.0%	24.4%	3.7%
実習施設の移動可能場所、病棟までの通路など	246	178	59	9
	100.0%	72.4%	24.0%	3.7%
実習委託費の変更	246	65	171	10
	100.0%	26.4%	69.5%	4.1%

B全体	B調整あり	B調整なし	B無回答
1,483	851	240	392
100.0%	57.4%	16.2%	26.4%
1,483	803	291	389
100.0%	54.1%	19.6%	26.2%
1,483	464	594	425
100.0%	31.3%	40.1%	28.7%
1,483	906	185	392
100.0%	61.1%	12.5%	26.4%
1,483	833	247	403
100.0%	56.2%	16.7%	27.2%
1,483	907	185	391
100.0%	61.2%	12.5%	26.4%
1,483	876	210	397
100.0%	59.1%	14.2%	26.8%
1,483	928	169	386
100.0%	62.6%	11.4%	26.0%
1,483	900	186	397
100.0%	60.7%	12.5%	26.8%
1,483	626	451	406
100.0%	42.2%	30.4%	27.4%
1,483	569	503	411
100.0%	38.4%	33.9%	27.7%
1,483	195	874	414
100.0%	13.1%	58.9%	27.9%

感染予防のための実習施設との調整について、「調査B_実習科目責任者」よりも「調査A_大学代表者」の方が全体的に「調整あり」の割合が高い。

46
〔色分け〕オレンジ：第1位、グリーン：第2位

設置ブロック別「臨地での実習変更の見通し・予定」

設置ブロック	合計	見通し・予定		
		変更なし	変更予定	無回答
	2,140 100.0%	337 15.7%	1,785 83.4%	18 0.8%
北海道・東北	244 100.0%	60 24.6%	183 75.0%	1 0.4%
関東	651 100.0%	62 9.5%	584 89.7%	5 0.8%
中部	374 100.0%	68 18.2%	301 80.5%	5 1.3%
関西・近畿	422 100.0%	75 17.8%	346 82.0%	1 0.2%
中国・四国	214 100.0%	37 17.3%	174 81.3%	3 1.4%
九州・沖縄	235 100.0%	35 14.9%	197 83.8%	3 1.3%

設置ブロック別「臨地での実習変更の見通し・予定」について、全体では「変更なし」337件（15.7%）、「変更予定」1,785件（83.4%）であった。「変更なし」の上位3位は、「北海道・東北」（24.6%）、「中部」（18.2%）、「関西・近畿」（17.8%）であった。「変更予定」の上位3位は、「関東」（89.7%）、「九州・沖縄」（83.8%）、「関西・近畿」（82.0%）であった。

設置ブロック別「臨地での実習日数・時間を短縮」

設置ブロック	合計	臨地の日数・時間を短縮		
		あり	なし	無回答
	1,785 100.0%	1,425 79.8%	242 13.6%	118 6.6%
北海道・東北	183 100.0%	113 61.7%	38 20.8%	32 17.5%
関東	584 100.0%	485 83.0%	68 11.6%	31 5.3%
中部	301 100.0%	234 77.7%	40 13.3%	27 9.0%
関西・近畿	346 100.0%	275 79.5%	51 14.7%	20 5.8%
中国・四国	174 100.0%	155 89.1%	19 10.9%	0 0.0%
九州・沖縄	197 100.0%	163 82.7%	26 13.2%	8 4.1%

設置ブロック別「臨地での実習日数・時間を短縮」について、全体では「短縮あり」1425件（79.8%）、「短縮なし」242件（13.6%）であった。「短縮あり」の上位3位は「中国・四国」（89.1%）、「関東」（83.0%）、「九州・沖縄」（82.7%）であった。また、約6割～約9割と設置ブロックにより差がみられる。「短縮なし」の上位3位は、「北海道・東北」（20.8%）、「関西・近畿」（14.7%）、「中部」（13.3%）であった。

【資料】設置ブロック別「臨地での実習時期を変更・延期」

設置ブロック	合計	臨地での実習時期を変更・延期		
		あり	なし	無回答
	1,785 100.0%	696 39.0%	887 49.7%	202 11.3%
北海道・東北	183 100.0%	41 22.4%	95 51.9%	47 25.7%
関東	584 100.0%	223 38.2%	301 51.5%	60 10.3%
中部	301 100.0%	136 45.2%	130 43.2%	35 11.6%
関西・近畿	346 100.0%	109 31.5%	189 54.6%	48 13.9%
中国・四国	174 100.0%	80 46.0%	94 54.0%	0 0.0%
九州・沖縄	197 100.0%	107 54.3%	78 39.6%	12 6.1%

設置ブロック別「臨地での実習時期を変更・延期」について、全体では「変更あり」696件(39.0%)、「変更なし」887件(49.7%)であった。「変更あり」の上位3位は「九州・沖縄」(54.3%)、「中国・四国」(46.0%)、「中部」(45.2%)であった。「変更なし」の上位3位は、「関西・近畿」(54.6%)、「中国・四国」(54.0%)、「北海道・東北」(51.9%)であった。

【資料】設置ブロック別「臨地での実習施設を変更」

設置ブロック	合計	実習施設を変更		
		あり	なし	無回答
	1,785 100.0%	650 36.4%	954 53.4%	181 10.1%
北海道・東北	183 100.0%	58 31.7%	79 43.2%	46 25.1%
関東	584 100.0%	258 44.2%	284 48.6%	42 7.2%
中部	301 100.0%	108 35.9%	158 52.5%	35 11.6%
関西・近畿	346 100.0%	117 33.8%	185 53.5%	44 12.7%
中国・四国	174 100.0%	48 27.6%	124 71.3%	2 1.1%
九州・沖縄	197 100.0%	61 31.0%	124 62.9%	12 6.1%

設置ブロック別「臨地での実習施設を変更」について、全体では「変更あり」650件(36.4%)、「変更なし」954件(53.4%)であった。「変更あり」の上位3位は「関東」(44.2%)、「中部」(35.9%)、「関西・近畿」(33.8%)であった。「変更なし」の上位3位は、「中国・四国」(71.3%)、「九州・沖縄」(62.9%)、「関西・近畿」(53.5%)であった。

【資料】設置ブロック別「学内実習への変更」

設置ブロック	合計	学内実習への変更		
		あり	なし	無回答
	1,785 100.0%	1,405 78.7%	298 16.7%	82 4.6%
北海道・東北	183 100.0%	129 70.5%	33 18.0%	21 11.5%
関東	584 100.0%	457 78.3%	102 17.5%	25 4.3%
中部	301 100.0%	254 84.4%	41 13.6%	6 2.0%
関西・近畿	346 100.0%	273 78.9%	47 13.6%	26 7.5%
中国・四国	174 100.0%	133 76.4%	41 23.6%	0 0.0%
九州・沖縄	197 100.0%	159 80.7%	34 17.3%	4 2.0%

設置ブロック別「学内実習への変更」について、全体では「変更あり」1,405件(78.7%)、「変更なし」298件(16.7%)であった。「変更あり」の上位3位は「中部」(84.4%)、「九州・沖縄」(80.7%)、「関西・近畿」(78.9%)であった。「変更なし」の上位3位は、「中国・四国」(23.6%)、「北海道・東北」(18.0%)、「関東」(17.5%)であった。

【資料】設置ブロック別「遠隔実習への変更」

設置ブロック	合計	遠隔実習への変更		
		あり	なし	無回答
	1,785 100.0%	755 42.3%	806 45.2%	224 12.5%
北海道・東北	183 100.0%	50 27.3%	79 43.2%	54 29.5%
関東	584 100.0%	293 50.2%	241 41.3%	50 8.6%
中部	301 100.0%	140 46.5%	131 43.5%	30 10.0%
関西・近畿	346 100.0%	159 46.0%	136 39.3%	51 14.7%
中国・四国	174 100.0%	27 15.5%	124 71.3%	23 13.2%
九州・沖縄	197 100.0%	86 43.7%	95 48.2%	16 8.1%

設置ブロック別「遠隔実習への変更」について、全体では「変更あり」755件(42.3%)、「変更なし」806件(45.2%)であった。「変更あり」の上位3位は「関東」(50.2%)、「中部」(46.5%)、「関西・近畿」(46.0%)であった。「変更なし」の上位3位は、「中国・四国」(71.3%)、「九州・沖縄」(48.2%)、「中部」(43.5%)であった。

看護学教育質向上委員会

役職	氏名	所属
委員長	吉沢豊子	東北大学大学院*
委員 (50音順)	石橋みゆき	千葉大学大学院
	鎌倉やよい	日本赤十字豊田看護大学
	善生まり子	埼玉県立大学*
	縄秀志	聖路加国際大学*
	細田泰子	大阪府立大学*
	前田修子	金沢医科大学*
	森山美知子	広島大学大学院

協力: 寿樹計算株式会社

* ワーキンググループ